

第 5 4 号

# 学体連会報

平成 2 9 年度

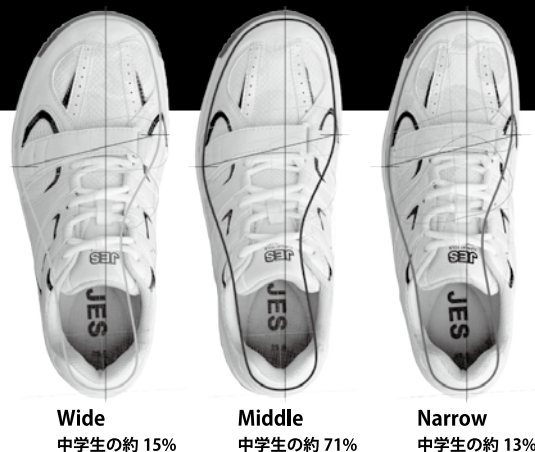


公益財団法人 日本学校体育研究連合会  
([http : //www.gakutairen.jp](http://www.gakutairen.jp))

### 教育的価値の高い学校シューズの開発を掲げて

#### — 研究開発と普及、助成・賛助活動等を行う団体として誕生 —

JES（日本教育シューズ協議会）は、昭和51年6月「教育的価値の高い学校シューズの研究開発を図り、児童生徒の“健康づくり”に貢献すること」を目的に、非営利団体として設立されました。当初は、「呼吸・吸圧シューズ」など、機能面に重きを置いたシューズの研究開発が主な活動でしたが、現在は、子ども達の足のトラブル軽減と健やかな足を育む（足幅対応）学校シューズの研究開発を進めています。



### 助成・賛助活動を公益活動として明確化

#### — 公益信託「日本教育シューズ学校体育振興基金」の誕生 —

平成元年5月には、JESの助成・賛助の業務を担うべく、文部省から公益信託「日本教育シューズ学校体育振興基金」が許可され、公益活動のための基金が設定されました。この基金は、JES会員の会費から拠出した追加信託金をもとに、学校体育・保健団体を対象に助成を行っています。平成15年には、基金関係者が集い、JFPA（日本教育シューズ学校体育振興連絡協議会）が発足、基金の充実発展を願い活動を行っています。平成29年までの29年間で、助成実績は累計417件・2億7千2百万円に達しました。

### 足の健康教育に関する普及活動を実施

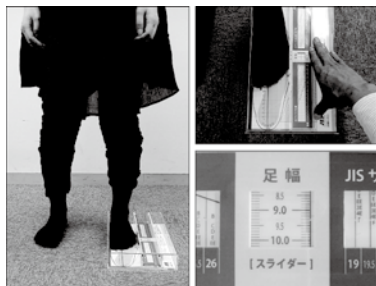
#### — 研修会・シンポジウムの開催、関係団体との連携活動、リサイクル推進など —

JESは創立以来、子どもの足と靴に関する講演会やシンポジウムなどを数多く開催してきました。平成18年には、JES創立30周年記念講演会を文部科学省の後援と多くの学校体育・保健関係団体の協賛を得て開催し、子ども達の足計測の必要性を確認。平成22年には、JFPAと共催で「子ども達の靴と足の健康教育シンポジウム」を開催、「足育」活動の必要性が提唱されました。平成29年8月には、(公財)日本学校体育研究連合会との共催事業として、「JASPE足育」研修会(第11回)佐賀大会を、文部科学省をはじめ多くの団体からの後援を得て開催したところです。

また、(公財)日本学校体育研究連合会の足育事業を共催し「足育」パンフレット・足育指導資料・発行に協力しています。世界初の試みとして、使用済みJESシューズの循環型リサイクル活動を通じ、環境教育と地球温暖化対策も行っています。



(公財)日本学校体育研究連合会  
<http://www.gakutairen.jp>



### 初めての足の計測“10,000人”を実現

#### — 子ども達の足に関する実態調査、足計測の日常化を目指して —

JESは、(公財)日本学校保健会「足の健康に関する調査研究委員会」に参加し1万人以上の足の計測やアンケート調査を実施しました。そのデータ集計や分析に関わり、「足の健康と靴のしおり(改訂版)」の作成や発行の協力をしました。現在は、調査結果に基づいた足と靴に関する正しい情報の発信、足計測の日常化を目指した「簡易足計測器」の開発と普及、足に合った靴による子どもの変容に関する研究など「足元からの健康づくり」に取り組んでいます。

これからも JESは、足元からの健康教育“足育”を推進して行きます。



みんな足守

<http://www.jes.gr.jp/>

日本教育シューズ協議会

本部事務局 東京都千代田区岩本町3-3-4  
〒101-0032 TEL(03)3862-8684 FAX(03)3862-8632

# 「改訂学習指導要領 体育・保健体育で育てたい力は何か」

会長 本村清人



二〇一七年三月三十一日、学習指導要領が改訂公示されました。次代を担う子供たちに求められる資質・能力として、

- ①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- ②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の三つが中教審答申で強調され、各教科の目標と指導内容、そして評価の観点がすべてその三本柱で構成されました（体育以外は「学びに向かう力」ではなく「主体的に学習に取り組む態度」と言う）。学術的に一貫性のある良い改訂だと思いま

す。その一方で、学校現場にとっては、新たな課題、例えば、評価の観点とその形成的評価や総括的評価について大きな課題を投げかけられたと言えるでしょう。とくに体育にとつては、「知識・技能」が一括りになつて評価の観点が表示されたことによつて、日々の授業実践でどのように指導と評価の一体化を図っていくか。小学校ではこれまでに「知識」の内容について取り扱ってこなかったこと、中学校及び高等学校では「知識」と「技能」のバランスをどのように取りつつ指導し、評価していくか。今後予定されている国からの評価に関する参考資料を待つだけでなく、課題意識をもつて授業実践に取り組んでいく必要があります。

今回の会報では、昨年度からシリーズで始めた座談会の第二回目の内容をお伝えします。テーマは、「学校体育に求められている改革とこれからの保健体育」です。体育・保健体育科改訂の趣旨及び要点を踏まえ、学校体育に求められている改革、言葉を換えれば、新学習指導要領が目指す体育・保健体育で育てたい力は何かということに迫る座談会です。和歌山県民文化会館を中心として行われます。第五十六回全国学校体育研究大会和歌山大会におけるシンポジウムの前段階として捉えていただければ幸いです。

もう一つ新たな情報を紹介します。学体連としては、これまで表彰事業として、全国学校体育研究最優秀校（文部科学大臣賞）、同優良校、全国学校体育研究功労者表彰を行ってきましたが、今年度から新たに「体育授業優秀教員」表彰事業を立ち上げました。優れた体育授業の実践並びに体育の授業研究を継続し、顕著な成果をあげている中堅教員（三十五歳～四十五歳、教職経験十年以上）を対象として表彰するもので、我が国の学校体育研究・実践のリーダーとして、さらには若手の人材育成を含めて活躍していただくことが目的です。ここでは、「全国学校体育研究最優秀校」二校と「体育授業優秀教員」五名を紹介いたします。詳しくは「研究資料集」（学体連）をご覧ください。さらなる体育授業研究の充実を目指して、ともに努めて参りたいと思います。

## 目次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| ・ 会長挨拶                           | 1  |
| ・ 座談会                            | 2  |
| ・ 全国学校体育研究大会近年度開催地紹介             | 17 |
| ・ 第55回全国学校体育研究大会福島大会を終えて         | 18 |
| ・ 第56回全国学校体育研究大会和歌山大会<br>開催にあたって | 19 |
| ・ 和歌山大会分科会授業の見どころ                | 20 |
| ・ 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介             | 23 |
| ・ 体育授業優秀教員紹介                     | 24 |
| ・ 全国学校体育実技指導者講習会について             | 25 |
| ・ 平成29年度ジャスベ足育の推進について            | 28 |
| ・ 平成28年度賛助会員（個人）一覧               | 38 |
| ・ 平成29年9月期賛助会員（法人）一覧             | 39 |

## 表紙にある学体連ロゴマークについて



(財)日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシェーマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシェマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。（会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職））

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
公益財団法人日本学校体育研究連合会  
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464  
発行者：本村 清人  
発行日：平成29年10月23日  
mail: gakutairen@msb.biglobe.ne.jp



# 座談会

日時 平成二十九年七月二十九日(土) 午後一時から  
会場 公益財団法人日本学校体育研究連合会事務局

新しい学習指導要領に向けた動きと運動し、「学校体育に求められている改革とこれからの体育・保健体育」をテーマに、シリーズで座談会を実施します。

今回は、「新学習指導要領が目指す体育・保健体育で育てたい力」について話をさせていただきました。

## 菅原事務局次長

《挨拶》

事務局次長の菅原です。きょうは暑い中、おいでいただきまして、ありがとうございます。

この座談会は「学校体育に求められている改革とこれからの体育・保健体育」についてシリーズで実施しております。その中で今回は、「新しい学習指導要領が目指す体育・保健体育で育てたい力」というテーマでお話を進めていただきます。

新しい学習指導要領が告示されたこともあり、全国の皆様が非常に期待する内容ではないかと思っています。

この座談会の内容を掲載する会報は、今年の全国学校体育研究大会和歌山大会で大会に参加する先生方にお渡しするとともに、各都道府県の主管課長並びに各都道府県の学校体育研究会会長の皆様にお届けすることになります。

きょうはどうぞよろしくお願いいたします。

**吉原理事**

《趣旨及び進行について》

本日の座談会では、次の三つの柱でお話を進めていただきます。

一点目は、現行学習指導要領における各校種の成果と課題。

二点目は、新しい学習指導要領が目指す体育・保健体育で育む三つの資質・能力。三点目は、今回の改革で求められております「授業の質の保証」についてです。

またお話の中で、東京オリンピック・パラリンピック等を踏まえて、岡出先生から「スポーツへの期待」という内容でお話をいただく予定でございます。

それでは、座談会の進行につ

きましては、本学体連理事長の日本体育大学教授、岡出美則先生にお願いいたします。岡出先生、よろしくお願いいたします。

## 岡出理事長

岡出でございます。学体連の理事長を務めております。本日の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まずは皆様から自己紹介をお願いいたします。最初に山室先生、それから小宮先生、木村先生の順番でお願いします。

## 山室忠敏先生（小学校）

川崎市立片平小学校で教務主

任を務めます山室忠敏と申します。よろしくお願いいたします。

昨年度から片平小学校は、川崎市教育委員会研究推進校体育科として、体育の研究をやっております。今年で二年目になります。

研究推進にあたり、普段の授業をよりよくするためにどうすれば良いのかを考え、日々研究に取り組んでいます。

片平小学校には昨年から勤務をしています。その前は王禅寺中央小学校に勤務していました。そこでは国研から評価の研究を委託されまして、バスケットボールと保健の学習で体育の評価について勉強させていただきました。

今回は新しい指導要領について勉強する機会をいただきまして、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

## 小宮昌志先生（中学校）

横浜市立今宿中学校で現在副校長をしております小宮と申します。平成二十七年まで保健体育科の教諭として指導しておりました。また教諭時代は横浜市の中学校体育連盟研究部に所属し、四年間、主任として横浜の保健体育教育の活性化にむけた研究を進めて参りました。私自身も、中学校における選択制授業、学習評価といった内容について研究、実践を重ねてきたところで

きょうは、保健体育のこれかと人材育成の視点を踏まえて、皆さんのご意見をお聞きしながら勉強させていただければと思っています。よろしくお願いいたします。



## 座 談 会 出 席 者



川崎市立片平小学校  
総括教諭

**山室 忠敏 先生**



日本体育大学  
教授

**岡出 美則 先生**



神奈川県立体育センター  
指導研究課 課長

**木村 典子 先生**



横浜市立今宿中学校  
副校長

**小宮 昌志 先生**

### 木村典子先生（高等学校）

神奈川県立体育センターの指導研究課長をしています木村といます。よろしく願います。

体育センターの勤務は今年で三年目となります。その前には県立平塚中等教育学校で六年間務め、中学一年生から高校三年生までを担当しました。

現在の業務は、神奈川県内の小学校、中学校、高校の初任者から一年目、二年目、五年目、そして十年目前後の中堅の研修、そしてもつと経験のある先生方の研修等を担当しています。

中等教育学校で中学校段階に身に付けておくべきことや中学、高校の接続について模索していた時期もありましたので、そのようなお話ができればいいなと思っております。よろしく願います。

### 岡出理事長

どうもありがとうございます。

改めて今日の座談会のテーマを確認させていただきたいと思います。今日のテーマは「学校体育に求められている改革」新学習指導要領が目指す体育・保健

体育で育てたい力」ということになります。現時点では新学習指導要領、それから解説書が公になったところですので、今からどのようなことを展開・実践すればいいのかということを論議する前に、改めてこの間、皆さんが学校で現行の学習指導要領で展開されてきた実践の成果、それから課題を紹介いただきたいと思っております。

新しい学習指導要領が出たということですが、新しいものは今までの積み重ねの上に花が咲いていくということですので、改めて残すべきもの、あるいは育てるものを確認しておく必要があると思いますし、現行の制度の中ではなかなか花を咲かせることができなかったもの、それが新しい体制のもとで花が咲くようにするには、どういう取組をすればいいのかということを確認をしていくための第一歩になるかと思えます。

皆さん、経験が豊富ですので、ご自身の経験、それから周りの学校、あるいは先生方の様子も踏まえられて、現行の学習指導要領の中で得られてきた実践の

成果、それから課題、そのようなものを、できればその判断の理由も併せてご紹介願えればと思います。

順番にお話したいと思います。

### 山室忠敏先生（小学校）

小学校での実践についてお話をさせていただくと、現行の学習指導要領、解説を含めて、発達の段階ごとにやるべき内容が具体的に示されています。例示が具体的かつ豊富なおかげで、先生方にとっては何を指導すべきか、何を学習内容にすべきかということは、とてもやりやすかったのかなと思っています。そうした意味で、子供たちに身に付けさせたい力というのが、定着してきていると思っております。学校体育できちんと体育学習の内容が身に付けば、自然と体力の向上にも良い影響があるのではないかなと思います。



### 岡出理事長

学年ではプラスアルファで上乗せができるような形にはなってきた。発達の段階にそってきちんと整理していただいたことが、系統的な学習につながったのではないかなと思っております。

ありがとうございます。

今、お話しいただいたことで、先生方からもう少し具体的に伺いたいことなどはございませんか。大丈夫ですか。

では、小宮先生から中学校のご紹介をお願いします。

### 小宮昌志先生（中学校）

実践の成果としては、より一層指導と評価の充実が図れたことではないかと思えます。学習指導要領の指導内容が明確化、体系化されたことによって、経験年数の浅い先生方にも授業が展開しやすくなったと思います。また自分の学校でも、教職員間での目標と評価基準の共通理解が図りやすくなったと実感しています。

他にも、小中高の十二年間の学習を四年ごとのスパンで分け

て、そのまとまりで考えていくことで、小中、中高の接続についてかなり意識するようになったと思っております。横浜では「横浜型小中一貫教育」を推進しています

ので、情報交換や合同での授業研究、それからカリキュラム研究について熱心に行えるようになったことも連動して連携が図れるようになったと思います。

さらに、四年ごとのまとまり

として捉えたことによって、中学校としては一、二年の二年間で全ての単元を経験してしっかり学ぶ、そして三年生から選択制を実施し、高等学校へというつながりができ上がってきました。その中で、自分で課題を見つけ、解決に向けての取組を実践するという一連の流れができ、生徒が主体的に学習を進められるようになって、運動がやっぱり好きだなとか、楽しいなと思える瞬間が増えたのではないかなと思っています。

ただ、課題もあって、やはり二極化という点で、運動が好きで一生懸命頑張れる子と、運動に対して苦手意識をもつてしまい、実践に結び付けられない子もいて、

そうした子供たちへの補充的な学習というのは、今後も課題になってくるだろうなと実感しています。

### 岡出理事長

今のお話で、何かご質問ございますか。

### 山室忠敏先生（小学校）

四年間のスパンということですが、どうしても小学校、中学校の壁を取り払うのは難しいかなと思う部分があります。高学年を指導していても、六年生は中学校に繋がるようにとは思いますが、実際には小学校の学習指導要領の内容でいっぱいというところまでできたかなというところは反省点として残ります。

### 小宮昌志先生（中学校）

確かに中学校にはいろいろな小学校から集まってくるので、それぞれの小学校で若干レイネスが違います。ただ、四年間というスパンで考えるきっかけを与えていただいたおかげで、小学校の先生との交流の機会は、明らかに

増えたなと思うんですね。それまでは小学校の授業を中学校の保健体育科の先生みんなで見に行こうというのはなかったんですが、例えば現任校でも小学校の授業を実際に見に行つて、そこで小学校のカリキュラムはどうなっているんですかというやりとりがあつたり、または中学校に学区の小学校の先生方に集まって授業を見てもらつたりという機会も、この現行の学習指導要領になつてから実践されているなと思うことが多くあります。

小中の先生方が語り合う場面がもてるようになったことで、子供たちの中二ギャップに対して有効な手立てが図れるようになったと、自分自身は実感しています。

## 岡出理事長

今、ご指摘いただいたように、要領上で四・四・四の括りで考えることで、先生方がお互いの特に小学校、中学校が典型だと思ひますけれども、小学校の先生が中学校の授業を見に行つたりとか、中学校の先生が小学校の授業を見に行つたりとか、お

互いに自分たちが今まで見なかった学校種の授業を見る、あるいは話をする機会が、現行の要領では多くなるように設定されたということが今のお話だと思ひます。

他方で、四年あるいは二年ごとに内容が示されたことによつて、一つの単元をゆつたりと読めるようになっていく。特に中学校の場合は、九〇時間であつたものが二〇五時間に戻つたこと、また二年間で全部の単元を経験するという、余裕をもつた選択制に向けての取組ができるようになったことのよさをお話しいただきました。

選択制を三年生からにしたのは、実態調査で前の要領で示されていた中学校二年生の選択状態が好ましくない、明らかに制度設計上の問題があるだろうということになったからです。中学校三年生以降で選択制を実施することで、子供たちの技能を伸ばしてあげるとか、いろいろな楽しみ方ができるようにしてあげるとか、そういう先生方の様々な試みをしていただいている一つの成果なんだろうなと思ひます。

そうした意味も含めて、高校生は今、新要領が出たとは言ひながらも、現行の要領自体が小学校、中学校に比べると、実施年度が遅かつたということもありますので、うまくいつているところと、そうでないところ等が、高校のほうで顕著に出ているのではないかと思うのですが、高校の状況をご紹介願えればと思ひます。

## 木村典子先生（高等学校）

実際に授業をしていたのが、中等教育学校だったので、中高の接続についてはとてもやりやすかつたです。中学校で何をやってきているかというのが分かつたうえでの高校の授業でした。しかし、中一は全県から入学してくるもので、レディネスの違い、ばらつきがありました。その点を考える、中一、中二で全ての種目を一度は経験し、特性に触れる機会をもつことで、自分に合つた運動を見つけられるようになったと思ひます。

また、多様なかわり方が大切だと考え、「する」「見る」「支える」、それから「知る」というところまでを含めて、授業で取

り組みました。

指導と評価を一体化させるということについては、かなり意識させていきました。例示が出たことによって、例えば球技でいえば、ボール操作とボールを持たない動きがありますが、それぞれしっかりとしたねらいをもつて、具体的な指導を行い、学習したことに対して評価を行う。指導したことでどのように変化したかを確認するという一連の流れを大切にしました。それは一年間だけにとらえるのではなく、長いスパンで考えることができたので、どの種目を選んでも、共通する指導内容があるということで、進めていくことができ、すごくやりやすくなりました。

また、高校生になると選択科目が多くなつてきます。その際、先生方が共通理解をしていないと指導内容にばらつきが生じてしまうので、コミュニケーションを図る必要があります。三、四人の先生方が一緒に活動を行っている授業でしたから、いろいろな先生の授業を見ながら進めることができたので、子供たちにとつても教員にとつてもプラスだったと考えています。

ただ、課題となつてきたのは、高校生として態度面の評価、発展のさせ方というのが難しいと感じていました。「積極的」「自主的」とはどのような動き、姿勢と読めるのかについて、さらに具体化したものが必要ではないかと考えています。

もう一つ、授業を組み立ていく上で、深く理解させる、主体的な活動をさせるといったことについて、表面的な学習カードの記入状況だけではなく、目標に照らして具体化していくことの難しさが課題として残っています。

## 岡出理事長

ありがとうございました。





今のみなさんのお話の中で、運動が好きになった子供たちが増えてきたという内容がありました。

他方で、小学校の高学年から中高生の女の子が、なかなか積極的じゃない。そして二極化の問題というのは、要領の改訂でも指摘はされているのですが、こうしたことに関する皆さんの印象はいかがですか。そのような現象は小学校ではあまり起こっていないですか。

### 山室忠敏先生（小学校）

僕が見ている限りは、やはり運動が嫌いとか、好きでないという子は、やらず嫌いというののも結構あります。経験が足りていないのと、それと達成感、できたとか、あるいはもう少しできそうという経験が少なく、どうしても運動が好きではない傾向になるのかなと思います。僕は授業の中でそうならないように、できたとか、もう少しできそうということ、子供たちが体験できるように授業を心がけるようにしています。男女の違いについては、それほど気にはなりませんでした。

### 岡出理事長

ありがとうございます。中学校はどうですか。

### 小宮昌志先生（中学校）

運動経験が少ない種目に対してなど、生徒たちは一歩引いた姿勢を見ることがあります。特に中学生になると、女子のほうに若干その傾向が強くなるようには感じます。ただ、その打開策というか、改善策として、多様なかわり「見る」「支える」「知る」などを大事にして、上手なことだけがすばらしいのではないことをアプローチをしていけば、子供たちも経験値が少なかったとしても楽しんだり、前向きになつていける様子が見られたという実感があります。

### 岡出理事長

ありがとうございます。  
高校はどうですかね。

### 木村典子先生（高等学校）

高校三年生で正規ルールで行えばいいと考えて、そこまでは楽しめるルール、楽しめる教具をふんだんに取り入れていきまし

た。生徒たちが運動を楽しめる環境をまずは探そうと取り組みました。

### 岡出理事長

ありがとうございます。  
技能に関して、現行の要領でも楽しく行うことをずっと強調してきています。これは生涯にわたってスポーツに親しむ資質・能力の育成というところからも重視されています。その成果は、先ほどご紹介いただいたように、運動好きの子供たちが増えてきているということですが、他方で体力に関しては、なかなか成果が現れてこないという指摘がなされています。  
その中で、先生方は今までも授業で子供たちが積極的に楽しく授業に臨めるために、いろいろな工夫をされてこられたと思います。こうしたことに関して成果があったところと、まだ課題があつて次に試したいことあれば、少しご紹介していただいてよろしいですか。

### 山室忠敏先生（小学校）

特に器械運動に関しては、で

きる、できないがはつきりするの  
で、感覚づくりの運動というのを  
準備運動等で扱うようにしてい  
ます。また下の学年でやってきた、  
特に低学年で用具・器具を使つ  
た運動遊びなどの内容で、みん  
なができるものから入っていく、  
その授業で何かができたという実  
感ももてるようにしています。

また、ボール運動でも、ボー  
ル操作を保証していくために、守  
備側がボールを持っている子に対  
してのアプローチに制限をかける  
とか、子供たちが取り組みやすい  
ルールの工夫に取り組んでしまし  
た。

### 小宮昌志先生（中学校）

中学校でも同様に、ルールや  
教材・教具を工夫することで、  
子供たちが自己効力感を得られ  
る工夫をしています。

それから、もう一つは、多様な  
かわり方ということ、例えば  
友達の動きを見て、「こういうふ  
うにやるといいよ」という的確な  
アドバイスをするなど、運動を学  
習する上で大切なかわり方を  
評価していました。仲間の役に  
立つたり、友達に喜んでもらえた

りという取組も重要視すること  
で、自分のよさや存在価値を実  
感できたことは非常に有効だった  
かなと思っております。

### 木村典子先生（高等学校）

中学校と同じようですが、子  
供同士のかかわりが多くもてる  
ようにして、それぞれの役割、そ  
れぞれの責任を果たすことに意  
義をもたせました。

また、ICTなどで子供たち  
の活動の内容や幅が膨らむよう  
なものを提示して活用できるよ  
うに考えました。

### 岡出理事長

ありがとうございます。  
先生方は、子供たちの能力に  
応じて様々な工夫を行ってこられ  
たと思います。他方で、現行の学  
習指導要領上でも、指導する内  
容が技能だけではなくて、思考・  
判断にかかわる内容、それから  
態度にかかわる内容が示されてい  
ます。指導内容に対して、小学  
校で三観点、中高では四観点で  
評価を行っています。子供たち  
の学習成果をバランスよく得ら  
れるようにするためにも指導の工

夫は必要になってきていると思います。このような観点からしますと、先生方が実際に指導されていて苦慮されたこととか、あるいはこれは成果が上がる有効なやり方であったというようなものも、もしございましたら、ご紹介していただけますか。

### 山室忠敏先生（小学校）

指導要領の内容から評価規準をとらえ、その評価規準をさらに具体的な子供の姿を想定し、単元計画の中でどこでこの内容を伝えるか、どこで見るかということ、指導計画と評価計画をリンクさせながら、学習の計画を立案しました。

難しいのは、思考・判断の学習の内容と、それをどう見取るかということです。小学校の教員にとってはなかなか難しいところだと思いました。しかし、一つ自分の中で成果があったのは、子供たちの話し合いだけではなかなかすべての子の考えたことを把握することができないので、書く作業、学習カードを使って自分の考えや思いを表す活動を取り入れました。そこで一人一人の思

いや思考したことは先生が見るという形をとると、比較的思考・判断の力を評価することができたなと思います。

### 小宮昌志先生（中学校）

中学校では、学習カードを使う機会が多分どの学校でも多いと思うんですが、そこで明確な目標を示し、判断のよりどころとなる評価規準を生徒に提示することで、教員と生徒が共通認識をもって学習に取り組めたと思います。目指す方向性や具体的な評価内容が生徒にもわかることで、より効果的な学習が展開できました。

それから、子供たち同士で、学習カードだけではなく、言語で伝え合う機会をたくさんつくり、それを教師が確認しながら必要に応じてフィードバックするということを繰り返すことは、思考・判断に関してのアプローチとして有効だったと実感しています。

### 木村典子先生（高等学校）

ほとんど同じです。学習カードの記入にしても、

授業をやっていることの観察にしても、知識に支えられた技能の上達だったり、知識に支えられた思考・判断の記入だったりというものを見取れるように、意識してやっていました。

### 岡出理事長

評価については、中央教育審議会の答申等でも特に態度に関しては難しいということが示されています。

今、ご指摘いただいたこととして、例えば思考・判断、今回の改訂でいえば「思考力、判断力、表現力等」と言われている内容があります。現行で小学校でいえば、思考・判断だけで知識については表に出てきていません。だから、思考・判断であって、表現力がついていたわけではなかった。

それが今回の要領の改訂は、資質・能力の三つの柱という形で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と、資質・能力の三つの柱に即して目標が示されました。そのことに関しては、皆さんとしては今までのお話を踏まえま

すと、割といい方向に動いたと感じられるのか、ちょっとこれは混乱していると思われるところがなののか、そのあたりはいかがですか。

### 小宮昌志先生（中学校）

まず、知識と技能が、一括りとして提示されたのは、自分としては分かりやすいという印象です。これはスポーツへのかかわり方の多様化というところで、その特性の味わい方は、「する」で楽しむというのが、健康教育として目指していく大きな柱ではあるのですが、そのきっかけとしては、「見る」とか「支える」、もしくは「知る」ということも大事だと思

うんです。

そうすると、先ほど言っていた、なかなか運動に気持ち向かない、実践ができない子供たちにとってのきっかけとして、知識と技能がセットになって提示されたことで、特性の味わい方として「知る」とか「支える」とか「見る」とかというところからのアプローチが少ししやすくなるのかなと思います。資質・能力の一つとして、それがセットになってよかったなと実感しています。

それから、「思考力、判断力、表現力」で、大切となるのが伝える力だということが示されていると思います。この伝える力というのは、保健体育の学習を通して、きちんと育てていかなければいけない力だと思うんです。というのも、経団連の記事だったと思うのですが、社会人として求められる資質・能力として、多くの経営者がコミュニケーション能力を挙げていました。学校教育の現場においても「自分の考えをきちんと相手に伝える能力」を育てていくことが大切だと思いました。保健体育の授業の中でも、それは実践して子供たちに



身に付けさせていかなければいけない力だと思うので、この表現力が「伝える力」ということで提示されていることも、非常に有効だなと実感しました。

ただ一点、自分がまだよくわからないなと思うているのは、「人間性等」の表現です。どう解釈するのかの整理がついていません。「学びに向かう力」は主体的に自分で学習に取り組んでいくととらえられます。「人間性等」については、具体的なイメージが湧いていないというところです。

## 岡出理事長

少し補足を加えた方がいいかなと思います。

この資質・能力の三つの柱というのは、体育が独自に立てているわけではなくて、教育全般で目指すものになりますので、それをそのまま体育に引き取ると、どのような表現ができるのかという話になるかと思うんです。

今まで態度と言われるところを「学びに向かう力、人間性等」と示されました。中央教育審議会の答申では、この「学びに向かう力」、それから「人間性等」

というのは、一応二つに分けられていて、「学びに向かう力」というのはメタ認知という表現をされています。自分がやっていることを自分でモニタリングしながら、自分はこういうことができてい

る、こうしたことをやっていけばいいんじゃないかということを、自分を外から見て、自分のやるべき課題をきちんと判断していき、そういう能力のことを「学びに向かう力」「人間性等」については、例えば公正にだとか、責任をもつて行動ができるだとか、このような形でとらえられています。そうなると体育では、今までの態度と合わせて考えていくという話になってくると思います。

この「人間性等」に関しては、他の教科は今回、内容を示していないという問題があります。「学びに向かう力、人間性等」は目標では示しても、指導内容は体育以外の教科は入れなかったんです。それは他教科が、今までの体育の態度にかかわる項目について、要領上示していないこと、また人格評価になるのではないかという問題があったからです。



しかし、体育の授業の場合は、

例えば後でお話しするオリンピッククとも関係しますが、公正にプレイをすることなど、きちんと指導することが求められます。そのため、現行で示されている態度の内容を「学びに向かう力、人間性等」で一応引き取るという形になったということになります。それが今、学習指導要領、解説書上の説明ということになっています。

## 木村典子先生（高等学校）

人間性の部分を考えると、本当に公正・公平でしか見ることができないので、評価として見たときには、「学びに向かう力」、

意欲ということと考えればいいのではないかという意識をもちました。

あと、表現力なんですけど、体育の伝える力は何だろうということ考えた時、学習の中で仲間伝える、そして、自分の考えを表すというコミュニケーション能力的なことを、表現力と考

## 岡出理事長

ありがとうございます。

現行の学習指導要領上でいいますと、思考・判断であって表現はついていません。この表現は他の教科にはあって、体育にはありません。その一番の理由は、体育の場合は内容領域名として表現領域があつて、そうした混乱を避けたいということがコメントとしてあつたんです。

同じことは思考・判断にもあつて、球技やボール運動等は、ボールを持っている人とか持っていない人たちが、常に状況を判断しているわけですね。そういう意味では、判断というものが実際にはかわってプレイをしていることになります。その判断と内容上で

言われている思考・判断が混乱することもあるって、判断という言葉は内容表記上は消されてきた経過があるんですね。

ただ、今回は要領全体で資質・能力の三つの柱に即して内容を整理するということだったので、どの教科もそれに従って内容の系統性、それから明確性を担保してくださいということ、それに従って試みた結果が、今回の表記ということになっています。

あともう一つ。表現をするというところにかかわっては、伝えることで理解度が深まるととらえています。自分が考えたことを人に伝えることで自分の理解度が深まる。それから仲間が考えたことを人に伝えるという、こうしたことが例示ではあがつていて、人が言ったことを自分で理解する機会が、表現をすることで広がっていき、思考力、判断力、表現力を育成していくことに繋がるとされています。

それからしますと、小学校が中高と違うところは、今までも内容の示し方としては知識がなく、思考・判断に加えて「行い方を知る」というのは書かれてい



ました。ところが中学校、高校  
に関しては、運動領域のそのも  
の中で、例えば歴史について理解  
するとか、運動観察の仕方につい  
て理解するとか、そういうものが  
もう既に明示されてきていたわけ  
ですね。それ以外に体育理論の  
知識があつて、知識の位置付け  
方が中学校、高校と小学校では  
かなり違っています。それが今回  
同じ枠組みで示されたことについ  
て、小学校の先生方としてはど  
んな印象をもたれそうですかね。

### 山室忠敏先生（小学校）

知識理解というと、保健領域  
でしかなかったものだから、知  
識と技能が一緒になってどうい  
う内容になっていくか、まだイメ  
ジがつかないところです。

### 岡出理事長

今までも小学校で「行い方を  
知る」ということは書かれていた  
ので、新学習指導要領の小学校  
の知識については「行い方を知る」  
としか示されていないわけです。  
歴史を知るとかなどを指導内容  
では足していないですね。

特に子供たちからすると、例

えばゲームのルールが分からない  
とか、前回りの技能のポイントが  
分からないとか、それから練習の  
仕方が分からないというのは、な  
かなかつらいところではあるので、  
行い方を知ることに関しては、  
は、そのままスライドしてきてい  
る。それができるといふことと、  
本来結びついてほしいこの知識及  
び技能に関しては、中央教育審  
議会というと、生きて働く知識・  
技能、こちらから考えられている  
ところがあります。個々のことを  
ばらばらに知っているではなく  
て、知っていることを関連づけて、  
それを実際に活用できるように  
なっていくってほしいと。そこから  
来ている概念でもあるので、小  
学校で単に知識を教えればいい  
と考えているわけではなくて、知  
識として身に付けたことがきちん  
と技能に結びついていき、実際の  
動きとして表せるようになってほ  
しいということですね。

他方で、小中高、皆さん同じ  
ように、評価をどうするんだと  
いう話になると、混乱されるのか  
なとは思っています。

### 山室忠敏先生（小学校）

現行の思考・判断の中に知識  
が入っている状況で子供たちの姿  
を見てみると、やはり自分の今の  
状況を知る、練習方法を知るこ  
とによって、技能を伸ばせる子は  
たくさんいます。だから、思考・  
判断能力の高い子は、技能の力  
も向上していく傾向にあるという  
現状があります。

### 小宮昌志先生（中学校）

今回資質としてきちんと身に  
つけていかなければいけないもの  
の一つとして、「行い方を知る」と  
いうのが小学校で明示されたこと  
で、技能が再生しやすくなると  
思うんです。例えば各単元でい  
えばルールや、またはある一定の  
技能をできるようにするためのポ  
イントを、子供たちが認識した  
状態で中学校にきてくれると、  
再生がしやすい技能になってくる  
と思います。いろいろな小学校か  
ら進学してくる実状があります  
が、もし、各小学校での認識が  
深まると、その「行い方」のレディ  
ネスのばらつきも、もしかしたら  
整う可能性があるのかなと思っ  
たりするんです。

その「行い方」というのは、  
具体的に小学校ではどういったこ  
とを指すのか、そのあたりはどの  
ように認識すればいいですかね。

### 山室忠敏先生（小学校）

器械運動というと、技の手順  
であるとか、ボール運動やゲーム  
に関しますと、大まかな基本的  
なやり方というところですね。

細かく言うと、ボール運動の  
ボールを持つていない動きに関し  
ては、ボールより前に走るとか、  
サイドを走るとかということを知  
ることで、技能が身に付きやす  
くなるということです。

### 小宮昌志先生（中学校）

ありがとうございます。

### 木村典子先生（高等学校）

おそらく言葉では言っていない  
けれども、高校の学習指導要領  
に出てくる暗黙知と形式知の部  
分ではないかと思うんです。やり  
方、行い方というコツであったり、  
こうするとうまくできるだろう  
ということ、実際に言葉で伝  
えてあげることがあるのかなと感  
じました。

### 岡出理事長

ありがとうございます。

例えば小学校、中学校、高校  
でも、球技の授業は典型だと思  
うんですけども、作戦図を書  
かせるわけですね。

バスケットボールで、どのよう  
に攻めたらいいんだろうといった  
ことを、話し合つて書かせている。  
そうすると、それを書ける子供  
と書けない子供が出てくるわけで  
すよね。それは「攻撃」の知識が、  
豊かにある子とそうではない子の  
違いであるというところえがで  
きると思うんですよ。ところが、子  
供たちは作戦を考えてやってみた  
結果、全然使えないという経験  
をするんですね。でも、なぜ使え  
ないのがわからないので、考え  
ること自体が意味がないとなつて  
しまふ、こういう経験をしている  
子供はいると思うんです。  
ところが、この「知識及び技能」、  
「思考力、判断力、表現力」、  
「学」に向かう力、人間性等」を  
活かして、お互いがかわるよう  
な形で、授業展開していきたい  
と考えていつたときに、なぜその  
戦図が結果に結びつかないのか  
と考えていく必要があるだろうな

と思うんです。

こうした問いかけをすると、それぞれの校種でどのような問題が思い浮かぶでしょうか。

### 山室忠敏先生（小学校）

まず、ゲーム中に立てた作戦通りに動く軌跡等の場面ができない。そして、チームの中でそういう動きを理解して臨んでいる子は一人か二人ぐらいしかいないので、それはもうチームの作戦として成立していない。または、分かっているんだけど、実際のゲームでは状況を判断して動けないという状態となり、やはり考えた作戦のほとんどが、バスケットやサッカーに関しては、実感が難しくなっています。

### 小宮昌志先生（中学校）

小学校で、分かっているけど動けないという状態で中学校にくる子供たちが大半だと思うので、戦術を子供たちに確認したとしても、なかなか実践できない部分があるんです。

ただ、その辺の工夫としては、例えばサッカーであれば、数的優位をつくった状態でやる、例え

ば3対5みたいな試合をやってみたりして実感をもってもらう。考え方を提供して、うまくいくところが体験できればいいというのが、授業の実状だと思います。

### 木村典子先生（高等学校）

今のお話で、作戦が空論になってしまうということについては、根本的な技能が身に付いていないとできないというところもあると思います。そのために、技能を補う用具を用いたり、簡単なルールにしたりすることで、作戦をうまく成り立たせられるのではないかと考えました。子供たちに考えさせて実践したことがあります。結構おもしろい結果が出て、よかったと思います。

### 岡出理事長

少し補足する形で、二つほどの例を提示したいと思います。

バスケットで小学校の高学年とかでよく見るんですが、ボールが来そうなところで消える子供。その子供たちは、ゲームの状況はよく見えていて、でもボールを扱うことに自信がない、失敗をする、みんなからクレームをつけ

られるのが嫌だからすつと逃げる。この人たちは、物すごく知識や、判断力があるがゆえに消えることができる子供なんですね。

パフォーマンスは高くないけれども、仕切れる子供。あそこへ行けとか、このように動けとかと言えら子供がいるわけですね。その子たちは技能が優れていなくても、いつ何をすればいいのかということとはよく分かっている。

そういう意味では、資質・能力の三つの柱に対応して内容が示されたわけです。これは今まで三つがある意味ばらばらにあったところが、このように示されたことによって授業が変わっていくこと、どういう可能性をもつのかということとは、これから試してみる必要があるのではないかと思うんです。

もう一つ、作戦図のことでいいますと、先ほどご指摘いただいたように、紙に書きますよね。ところが、誰がどこに行くかを確認していない。ですので、コートに入つたとたんに、自分はどこで何をやるかがわからないという状態になる。それから、作戦図が

再現できないのは、いつどこに動けばいいのかというタイミングが、紙上では再現されないの、動きで直接合わせて、これぐらいの時間ということを確認していかないと、実際のパフォーマンスとして発揮できない。だから、練習する必要がある、

これは思考力、判断力、表現力にもかかわって、自分たちの課題が何か分からないと、作戦を立てても形にならないと諦めてしまう。そこを、君たちはなぜそれがうまくいかないんだろうという指導があると、自分たちの課題を見つめる、あるいは課題



を分析する、といったことがもう少し見えと思うんですよ。

学習指導要領、それから解説書では、実際によくよく見ていくと、課題を分析するとか、課題を見つけるとか、そういうことは書かれているんですよ。そのあたりがうまく伝えられて、この三つが絡むような授業ができるようになっていくと、子供たちのスポーツの見方ができてくるのかなと思ったりはするんです。

先ほど、「学びに向かう力・人間性等」云々ということでは、例えば好きになる、積極的

に何かに取り組む、これも大事な要素なんですね。ところが、そのうなれない子供は、それなりの理由があるはずで、小学校の今回の解説書では、苦手な子への対応とか、意欲的ではない子供への対応の例示まで書いたわけです。

### 小宮昌志先生（中学校）

どの行動になってくる。それを評価してあげるとなると、いわゆるスポーツに対する多様なかわり方みたいなものが、もつと前面に押し出せるのではないかという印象をもっています。

そういう意味では、子供たちの考え方が「する」からもっと広げていけるような可能性というのは、今回の要領とか解説書を見て、どのようにとらえているか、伺えればと思うんですけれども。

### 小宮昌志先生（中学校）

やはり現行よりも、より一層多様なスポーツへのかかわり方というのを認めやすくなるだろうなと。先ほども知識と技能がセットになったことで、「こういう膨らみ方が考えられる」とか、または「表現力に関して、こんなイメージができる」というお話をさせていたいたのですが、子供が自分の個性を生かせる場面と、それを僕らがいいねとフィードバックできる機会が、すごく増えるんじゃないかなという示し方になっていると思います。それから、三つの資質・能力については、お互いにかかわり合った見方を教師

がしていけると、より一層子供たちの多様な力を認めてあげやすくなるのかなと感じます。

特に、技能のイメージを再生しやすくするための知識であると同時に、現行でも示されている思考・判断を支える大もとなつていると思うんです。だから、三つには分けたけれども、結局それぞれの資質・能力が支え合う中で、子供たちの生涯体育スポーツの力であるとか、健康教育の力であるとかというのが身に付いくと思うので、多様な子供たちの姿を認めながら、方向性として健康教育に向けていけるようなフィードバックがたくさんできるようになるといいなと感じました。

木村典子先生（高等学校）  
小学校の次期指導要領のを見ますと、かなり細かく、思考・判断、表現に対しても例が出て、それに従ってやっていくことができるので、若い初任の先生たちもそれを見れば授業を組み立てられるなという感想をもちました。

### 山室忠敏先生（小学校）

多様な子供への対応というのは、特別支援と同じような形にはなっていくと思います。全体で指導しなくてはいけない部分と、その子の思いに対して、個別に寄り添う部分とでやっていく必要があると思います。そこでは教師一人で行うには難しいところは、学級の仲間と協力しながらになっていくのかなと思っています。まだ

考えはまとまらないんですけれども、そのようには考えています。

### 岡出理事長

ありがとうございます。

実際には学習指導要領は、法的な拘束力をもつていて、それに従って進めなさいというものが、他方で、それだけでは具体的にどのようにやればいいのかわからないという話は常に出てくるので、解説書が出てきているわけです。

以前は、かなり分厚い要領と解説書が一緒になった類いが出されていたわけですが、解説書はあくまで解説書でしかなくて、いかに授業を構想するかという情報が提供されているわけ

す。その中で基本的な概念については、共通理解が図れる文章として示されています。

また、発達の段階ということを考える、授業の仕方は子供に合わせながら、かなり柔軟にやっていく必要があると思うんですよ。例えば知識及び技能について言えば、小学校で知識については説明しないといけないわけ

す。

しかし知識の与え方となつたときに、先生が全部しゃべり切つて、このとおりに覚えておけというものかというところではなく、理解度のレベルだとかを、先生方が意識しながら授業をしないと、何か授業が変になってしまう危険性もあるわけです。

そうしたことは現行の学習指導要領で実施していた授業でもあり得たことで、新要領が出たからといって、その危惧が消えるわけではないので、今後、この資質・能力の三つの柱について、こういうことを意識していく必要があるんじゃないかということで、思い浮かぶことはどんなものがありますかね。



## 山室忠敏先生（小学校）

表現力というところに引っかけたて、意見を交換し合うとか、自分の思いを言うとかで時間を費やしてしまうと、肝心の主運動をする時間の確保が難しくなることが考えられます。四十五分しかない中で、どの配分で表現力を高めていくかと考えると、時間の諸配分によつては、国語的な活動のような体育で終わってしまったのかという危惧があります。

## 小宮昌志先生（中学校）

中学校では、まずはその知識をどれだけ最小限のものとして子供たちに提供できるかというところが、すごく大事だと思います。要するに事前の準備の段階で、この運動を楽しむためには何を知っておいたらわなくてはいけないのかというのを、指導要領の文言から読み取って、教師側が簡潔な内容にして子供たちに提供する。そうすると時間がある程度短縮されるので、主運動の時間をきちんと確保できると思います。

知識を定着させるためには、

生徒にとつて自分ごととできる

ように、自分から説明する、学習カードに記載をする、自分が得た知識を再生するという活動を繰り返していくことで、ある程度その知識というのは、定着させていけるかなと思うんですね。そこに関しては、新しい取組においても、同様のことが言えるはずなので、継続していきたいなと考えます。

## 木村典子先生（高等学校）

今の立場で考えてしまったんですが、学習指導要領の解説に載っている細かいことについて、研修などで実際の授業場面で活用できる内容を行うことで、様々な方法がわかってくるのではないかなと思います。また研修を受けた先生から、学校の中に広まった材料が増えていけばいいと感じました。

## 岡出理事長

ありがとうございます。  
要領に書かれていることを実践していく際、主体的・対話的で深い学びという、そういうプロセスを子供たちに提供していくこ

とが求められています。その中

で、資質・能力の三つの柱が授業の中で連動し始めると学習の効果が上げられると考えられます。それは一時間単位ではなく、その単元全体を通して、あるいは場合によっては年間指導計画と関連させながら、一回一回の授業で位置付けを確認し直すようなことも、解説上は求められてはいると思うんです。

そういう意味では、スパンを長くとつて、今やっている授業を自分なりに位置付けることができ、余り焦らずに授業が展開できると思うんです。

あと、そのようなことを踏まえながら、「学びに向かう力、人間性等」に関しては、オリンピック・パラリンピック教育との絡みが、取り扱いで言及されているわけですね。オリンピック・パラリンピック教育と関連をさせながら、指導するというのも述べられているんですけども、このような記述に関する可能性と、逆に問題点とか、戸惑いというものがあるかも伺ってみたいと思います。

既にオリンピック・パラリンピッ

ク教育の推進ということで、体育の授業以外にもいろいろなことに取り組んでいる学校が増えたりしていると思うんですけども、このあたりはいかがですかね。

## 小宮昌志先生（中学校）

オリンピック・パラリンピックの開催にあたって、スポーツに対する意識が社会的にすごく高まると思うんです。その機会を、保健体育の教員として、教育に携わる人間として、効果的に活用していきたいなと思っています。

これを機に、多様なスポーツへのかかわり方を、子供たちも世の中も認識をしてもらって、いつでもどこでも誰でもスポーツは楽しめる、いろいろな国籍とか、私たちは障害とか、そういったものを乗り越えてスポーツを楽しめるという機会にできたらと思います。そして「見る」「知る」「知る」「知る」いろいろな楽しみ方があるんだということを、様々な場面で提供できたらなと思うんです。  
メディアも当然オリンピック等に目を向けてくれるのですから、そのときに、例えばその競技を

支えている方々にスポットライト

が当てられたり、または見たり、または応援している人たちが、何か役に立っていたりする様子であるとか、そういったことがいろいろなところに伝わると、子供たちもスポーツへのかかわり方というのが、イメージとして膨らんでいくんじゃないかなと思うので、このオリンピックを機に、そうした視点を教育者側も大切にして、付加価値をつけていけたらいいなと思います。

## 山室忠敏先生（小学校）

学校でパラリンピックやオリンピックのいろいろな運動について知ること、興味関心を広げていくことにつながると思います。自分もやってみたい、見てみたいという、運動の日常化とか、あるいは地域のスポーツに返していくと、運動、健康増進、そして生涯スポーツにつながっていくと思っています。

個人的な思いですが、バスケットのBリーグが始まって、今まで「やる」「教える」側にはいたのですが、見る方側になって、行ってみたらこんな世界があったんだ、



こんな楽しいんだということがわかった部分があったので、それもオリンピックやパラリンピックを機会に、スポーツを皆さんに広げていくには、有効な手立てなのかなと思っています。

## 木村典子先生（高等学校）

オリ・パラ教育といっても、子供たちが知らないことが多いので、特にパラスポーツに対しては、ボッチャにしてもシッティングバレーにしても車椅子バスケット・テニスにしても、やってみることで、自分がかかわれるかとい

うことにつながるのではないかと 생각합니다。こうしたことはとても大切で、それが先ほど言った、誰でもができるインクルーシブ的な感覚で進めることだと思うので、大切に進めていく、先生たちも一緒にやっていくという取組にしていけたらと思っています。

## 岡出理事長

ありがとうございます。

このオリンピック・パラリンピック教育に関しては、二〇二〇年にオリンピック・パラリンピックが開かれるということで、そこが物すごくクローズアップされていますが、実は二〇一九年にラグビーのワールドカップがあるわけです。そして二〇二二年にはマスターズも行われることになっていて、この三年間で国際的なスポーツイベントが日本で行われるんですね。

もともと東京オリンピック・パラリンピックを招致する動きの中では、いわゆる日本のプレイゼンスを高めていくということがありました。この中で「Sport for Tomorrow」という事業では、例えば日本の学校体育のシステム等を海外に輸出をしていくとい

う、そういう動きも始まっているわけですね。他方で、東京オリンピック・パラリンピックのムーブメントでいえば、長野オリンピックが一つのインパクトを与えているところがあつて、あのときに一校一

の問題があるということになってしまいますので、その問題を解決するために、日々いろいろな努力をしていく必要があるわけです。それにより、よりいい文化を生み出していくこと、スポーツのもつ価値観を人に伝えていくことで、自分たちが日常生活で大事にすべき価値観を共有していけるわけです。

なつて、世界にはこんな人たちがいるんだという話が割と身近にできるようなったと思うんです。それがいわゆるスポーツを通した国際理解だとか、スポーツを通した開発支援だとか、そういう形でスポーツがもつ可能性が、世界の中でどんどん広がり、なおかつ体育の授業が、スポーツのよさを広げていく大事なベースになるという、そういう動きはこの間ずっと続いてきていると思うんですね。そうすると、むしろ体育

ところが、スポーツに問題がないわけではないので、中学校と高校の体育理論では、そのスポーツのポジティブな面と、抱えている問題点に関してどのような対応策ができるかということも考えましようという内容があるわけです。

例えはオリンピック・パラリンピックに関しても、スポーツの質自体がかなり問われて、アンチ・ドーピングが積極的に展開されるというのは、逆に言ううとそれだ

そうした意味では、体育の授業で、質の高いスポーツにしているために、自分たちがどうしていくべきかといったことも学習していくことが大事だと思うんですね。先ほどもお話いただいたようなインクルーブな、例えば誰もがそこにかかわれるような体育、そういうものから改めてそのスポーツのインクルージョンとか、あるいは社会の中でのインクルージョンとかが語られていくような

可能性があればいいかなと思うんです。

スポーツはそういうことをするための道具じゃない、そういうことにスポーツを使うと言われる方も当然おられると思うんですけれども、皆さんとしては、そういう可能性等についてのお考えはいかがですか。

### 小宮昌志先生（中学校）

やっぱり、今教えている子供たちが、健康に生活をしていくための一助としての保健体育というのが、僕としてはすごく強くイメージするところなので、いつでもどこでも誰とでも運動に親しめるということ、提供し続けていきたいなと思います。

もちろんその一方で、運動文化、運動がおもしろいと感じるのは、いろいろな技術が発展したりとか、新しい楽しみ方が生まれたりといったことも大事なことだとは思っているので、競技スポーツが盛んに行われることも、同時に大切にしていきたいなと思います。ちよつと都合がいい発想なのかもしれないんですけど、両方とも大切にしていけるような子供

たちを育てていきたいと思っています。

### 木村典子先生（高等学校）

小学校、中学校の総則にも、豊かなスポーツライフということが明記されています。豊かなということは、スポーツマン的に本来にスポーツを意識してというのもあれば、多様なかわり方のスポーツもあるので、その豊かなスポーツライフとして受け止められれば、学校としてはいいのではないかと思います。

### 山室忠敏先生（小学校）

運動、スポーツを通して人とかかわり、人とのつながりがずっと継続していけるという面に関しては、先ほどの岡出先生の話は、僕はポジティブにとりたいなと思っています。経験したスポーツの仲間が増えると、それは社会スポーツにもつながりますし、私自身のことかというと、教えた、教えられたという教え子との関係等もあります。さらに、地域のスポーツクラブ等の応援や観戦、ファンクラブへの入会などで、地域の活性化や経済効果も望め

るのではないかと思います。スポーツのもっている可能性で利用できるものはどんどん利用するということ、言い方はおかしいんですけども、活用できるものは大いに活用していくことは良いのではないかなと思っています。

### 岡出理事長

ありがとうございます。

ご指摘いただいたようなことは、スポーツ自体が本来に多様化し、それは誰もが様々な形でスポーツにかかわることができるといことですね。それができる社会というのは、ある意味多様性を認めてくれる社会と考えていくことができれば、体育の授業から発信できる内容というのは、幅広く出てくるのではないかなと思うんですよ。でも、そうすると、本当に指導内容がいっぱいになってしまうという話になり、カリキュラムマネジメントの重要性が言われるのだと思います。

また、授業の質の保障というのは、限られた時間の中でやらなくてはいけないことですから、それをいかに高めていくのかに関しては、私たちは考えないといけ

ないところで、それがある特定の先生だけができるという話だと、逆に問題が残ってしまうということになるかと思っています。

そういう意味で、先ほどご紹介した主体的な学び、対話的な学び、深い学びを授業の中できちんと配慮して実践してほしいということになります。目的に依じて使い分けないといけないという指摘もなされているんですけども、このような指摘を踏まえて、授業の質が全国津々浦々、保障されていくようにしようとする時、課題となること、それからこういう改善策が必要ではないかと思われるところも、少しご紹介いただければと思います。

### 山室忠敏先生（小学校）

授業の質というものを考えると、やはり授業の始めと終わりをきちんとすることだと思っています。今日の授業では何をしますか、あるいは子供たちに何を身に付けさせたいのか、自分のめあてや目標をしっかりと立てて、それに沿った活動のために、場を先生が用意する、そして授業のまとめの時間で、きょうは何ができるよ

うになったか、何が変わったか、何が楽しかったかという、児童自身が振り返る時間をとってけると、一時間、一時間の授業が質が高いいものになると考えます。その積み重ねが単元として、身に付けさせたい力を着実に習得できていると思っています。だから始めと終わり、そして展開がリンクするような、筋の通った授業を心がけていくことが大切だと思っています。

### 小宮昌志先生（中学校）

授業の質を保障していくと考えるとときに、現行の学習指導要領を実践する中でも、すばらしい取組がたくさんあったと思うんです。これまでも主体的で対話的、なおかつ深い学びが保障された授業が数多く提案されてきました。あとは、それをどれだけ多くの学校に一般化できるかというところが、大事なかなと思います。優れた取組を一般化するためには、少しの努力で、誰でも限られた勤務時間の中で実践できるシステムを提案していくことが必要だと思っています。みんながやりやすくなったり、取り組みやすく





なったりすることを考えていきたいです。

それから、主体的な学びとか対話的な学びとか深い学びに関して、今までどのように取り組んできたかと考えてみますと、まず目標や学習カードの活用方法などについて、教師間、生徒と教師が共通理解を図っていくことを大切にしてきました。子供たちが自分の力を伸ばしていくために、自分自身でPlan、Do、Check、Actionを行う機会を授業の中で確保していくことで、課題解決に向けて深く考え、主体的な学びになっていたと思います。目標の実現に向けた取組を重視してきましたし、それは今後も続けていくべきことだと思っています。

対話的な部分でいえば、例えばグループ協議だったり、ディベートであったり、ロールプレイであったりということを実践してきていると思うんですね、それを繰り返していくことで、子供たち自身も対話する力が生まれてくると思います。

それから、深い学びの部分でいうならば、課題解決に向け、それまで学んできたことを再生的

に思考したり、創造的に思考していくことを繰り返しながら、最後は実践力に結びつけていくというところでの深い学びというのもやってきております。こういったことを、経験年数の浅い先生方にも提供して、みんなで共有していくという流れができていくと、授業の質的な保障というのはできるのかなと自分ではイメージしています。

#### 木村典子先生（高等学校）

先ほど山室先生がおっしゃったように、きょうは何をやるよという目的を提示してあげ、何を学ぶのかを子供に理解させ、何ができるようになるかを考えて、どのように学ぶのかということを見通す。単元での見通しを子供がもてるようにしてあげること、本時の見通しを子供がもてるようにしてあげることが、授業の質を保障することにつながるのではないかと思います。

#### 小宮昌志先生（中学校）

今まで蓄積されてきた様々な成果をもとに、授業の質の保障を一般化させていくために大事な

視点となるのは、小中高の十二年間、または中学校三年間、そして年間、単元といった一定空間を見通しながら、子供たちに身に付けさせたい力をとらえていくことではないかと思っています。岡出先生も先ほどもお話しされていたように、一時間単位では解決できないことも多々あるので、例えば単元を見通して、この中でこういった学習を盛り込んで、どんな資質・能力を育てていくかということ、授業のあり方として教師側が共有できると、一般化できて授業の質の保障につながるのではないかと思います。

#### 岡出理事長

ありがとうございます。

今、ご指摘いただいたことで改めて確認しないといけないのは、要領と解説書がこの十年をかけて現行指導要領に基づいて授業実践したことの評価、総括の上に次のステップを示したということであると思うんですよ。そういう意味では、まず日本中の体育の授業にかかわる先生方が、共有すべき理念とか、それから内容だとか、そのようなものが出さ

れたということだと思うんです

ね。これから改めてスタートする  
とするならば、今までの取組を  
踏まえた上で、授業の手続き、  
それからその成果といったものを  
より多くの方が共有できるように  
な仕方を、あるいは共有する試  
みを展開していくことが必要にな  
ると思うんですよ。

それは今言われた話でいうと、  
一つ二つの授業の評価もそうす  
し、それから単元の計画もそう  
ですし、年間の計画も含めて、  
カリキュラムの評価、それがひい  
ては改めてその学習指導要領全  
体の評価に戻っていくサイクル  
に、これから入るんだと思うん  
です。そういう意味では先生方  
が今、日々行われている授業の  
成果を共有する、それを学校単  
位を越えて地域で共有する。本  
会としまして、全国大会等で  
授業等を通して、皆さんが要領  
の姿を確認できる、それから優  
秀教員等が表彰される、あるい  
は優秀校が表彰されることで、  
そのモデルを見ることができよ  
うになっていく、そのような試  
みを、今後私たちとしても続け  
ていければいいのかなと改めて感

かせていただきました。

皆さんからこれを言い忘れてい  
たなとか、言ってみたかったな  
ということがあれば、補足なり自  
由にご発言いただければと思いま  
す。

### 山室忠敏先生（小学校）

新しい資質に関して、「人間性  
等」というところが、とても何か  
悶々とする部分です。以前評価  
の研究をしていたときに、「関心・  
意欲・態度」の評価規程があつて、  
そこから具体的な子供の姿を想  
定していったんですけれども、十  
分満足できる子供の状況を考え  
たときに、やはり行き着く先は、  
キーワードで言うと「気のきいた  
子」なんです。学習に向かう姿  
勢は言うならば、人間性が大き  
く影響してくるのかなということ  
があつて、結局子供の具体的な  
姿を想定していったときには、人  
のことを思いやれるような気のき  
いた子が学習に対して取組方が  
良く、学習内容をしっかり習得  
できている、それが人間性につな  
がっていくのかなと思ひました。  
そう思うと、学校と家庭、地域  
のつながり、家庭や地域の教育

力というのは、とても大切なのか  
なということを実感しています。

### 木村典子先生（高等学校）

十年間のスパンで新しい学習指  
導要領が作られました。次の  
十年後は私も全く分からないな  
いんです。

十年間をこの学習指導要領で  
やっていくときに、ねらいは何だ  
ろうと考えたら、予測つかないこ  
とでも、生き抜く力を子供につ  
けてあげる必要がある。自分で  
対応していく力を身に付けさせ  
るために、授業を実践しなくて  
はいけないんだなという気持ちに  
なっています。

### 小宮昌志先生（中学校）

目の前の子供たちが幸せであつ  
てほしいと願います。保健体育の  
授業を通してその子が生涯にわ  
たつて幸せに生活するために必要  
な資質を少しでも育めればと思  
います。

例えば社会人になったときの  
仲間と、自分の子供や介護して  
いる自分の親と、または障害の  
ある方と、スポーツが楽しめる  
ようになって、健康に生活できる

力を授業の中で身に付けてほし  
い。だからいつでもどこでも誰と  
でもなんだよという話をしなが  
ら、授業を実践してきました。  
明るく健康に過ごしていくための  
力を、保健体育の授業を通して  
身に付けさせていくということを  
今後も継続したいなと、今回の  
お話をさせていただきながら、改  
めて実感しました。

### 岡出理事長

ありがとうございます。

今のお話で指摘あつたよう  
に、今回の要領の改訂というの  
は、十年先を見越してと、二〇  
三〇年、その時代はどういう時  
代かというところで、先が見通せ  
ないということがあります。そ  
れから、二〇四五年になるとA I  
が人間を追い越していくという予  
想もあります。そのときに人間  
が行う仕事のほとんどが消えて、  
人は何をするんだろうという、こ  
ういう予想図ですよね。できない  
からやれないじゃなくて、できな  
いことに挑戦していくという、こ  
のことがますます問われる時代に  
なると思うんです。そういうチャ  
レンジが結果にきちんと残つてく

る、それが実感できる、そうし  
た機会を授業の中でも提供して  
あげることができれば、子供た  
ちは自分の可能性を信じること  
ができるし、ひとりできなくて  
も、人とかかわつてやると、こ  
ういうことができるようになるん  
だという実感をたくさんもってく  
れるようになっていけば、今言つた  
ようなことにも貢献できるよう  
になつていくとは思っています。

体育の授業の場合は、それを  
割と身近に学習して、実感でき  
る機会が多いのではないかと思  
うんです。他の教科でも当然やら  
ないといけないところと思うん  
ですけれども、考えたことを試して、  
その結果がすぐにフィードバック  
されて、次の取組につなげること  
ができる教科特性を最大限に活  
かすことを考えたいですね。  
いずれにしろ、これから解説書  
もできて、実際に移行期間に入っ  
ていくわけですから、全面実施の  
ときには、いい形で展開できるた  
めの情報がお互いに共有されて、  
それが広まっていくことによって、  
特に若い世代の人たちがそこに  
挑戦していただけるような時代が  
ある意味楽しみかなと思います。

本日は貴重なお話の数々をありがとうございました。

#### 吉原理事

長時間にわたりまして、ご熱心にお話し合いいただき、ありがとうございました。たくさん貴重なお話をいただいたことを、まじめに参ります。

では、菅原先生、まとめのご挨拶をお願いします。

#### 菅原事務局次長

長時間にわたり、ありがとうございました。

お話が進むにつれて、ご自身の具体的な実践や考えを述べていただき、充実した座談会となりましたこと、感謝申しあげます。

これが会報という形になって、全国各地に広がっていきますので、神奈川の実践が、きっと皆さんの共感を得られるのではないかと思います。ありがとうございました。

#### 一同

ありがとうございました。

## 全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

|                           |      |                   |
|---------------------------|------|-------------------|
| 第56回全国学校体育研究大会（平成29年度）開催地 | 和歌山県 | 平成29年11月9・10日     |
| 第57回全国学校体育研究大会（平成30年度）開催地 | 佐賀県  | 平成30年11月15・16日    |
| 第58回全国学校体育研究大会（平成31年度）開催地 | 埼玉県  | 平成31年10月31日・11月1日 |
| 第59回全国学校体育研究大会（平成32年度）開催地 | 福井県  |                   |
| 第60回全国学校体育研究大会（平成33年度）開催地 | 愛媛県  |                   |
| 第61回全国学校体育研究大会（平成34年度）開催地 | 滋賀県  |                   |
| 第62回全国学校体育研究大会（平成35年度）開催地 | 山形県  |                   |
| 第63回全国学校体育研究大会（平成36年度）開催地 | 山口県  |                   |

# 第五十五回全国学校体育研究大会 福島大会を終えて

福島大会実行委員会 会長 森 知高



第五十五回全国学校体育研究大会福島大会を平成二十八年十一月十日・十一日の両日に亘って福島市内の会場に於いて開催いたしました。初日、二日目とも天候に恵まれたとは言えませんでした、無事に実施・運営することができました。

初日の「とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）」での全体会では、主催者ならびに来賓より、今回の大会への期待のお言葉を頂きました。その後、これまでの学校体育の功績に対し、最優秀校・優良校・功労者の表彰がなされました。表彰の栄に浴された学校・先生方に敬意を表します。

また、全体会では、研究部長

による「基調報告」、スポーツ庁教科調査官森良一氏からの「育成を目指す資質・能力を踏まえた体育・保健体育科の指導と評価の在り方」と題する「解説」、筑波大学・山口香准教授のコーディネートによる、幼・小・中・

高・大の先生方をシンポジストにお迎えした「体育・保健体育で育成を目指す資質・能力についての「シンポジウム」、そして、スポーツコメンテーター宮島泰子氏による「スポーツの現場取材から学校体育に期待すること」と題した「特別講演」が行われました。

二日目の分科会は、福島市内の十一会場（幼稚園一会場、小学校四会場、中学校三会場、高等学校二会場、特別支援学校一会場）に分かれ「公開保育・授業」と研究協議を行いました。

いずれの会場でも、実りある研究活動が行われたことを確信しております。

本大会の大会主題は「仲間と

ともに運動の楽しさを味わい、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力をはぐくむ体育授業くふくしまの未来を担う心身ともにたくましい子供の育成を目指す」と設定しました。

この主題は、現行学習指導要領を踏まえつつ、これまで私たちが目指してきた福島県の体育授業の成果をまとめるものであり、また、本大会直前に公表された「次期学習指導要領にむけて審議のまとめ」を受けたものでもあります。

この主題を達成するために三つの視点から研究を進めました。「特色のある年間計画・運動の楽しさを味わい指導内容の定着を図る単元指導計画」「運動・スポーツに親しむ資質や能力を育む指導」「指導と評価の一体化」です。

福島県は、平成二十三年三月十一日、東日本大震災とそれに伴う東京電力第一発電所事故による未曾有の被害を受けました。

福島県民は、心身ともに多大な苦労を強いられることになりました。児童・生徒の生活面・学習面も影響を受けざるを得ませんでした。屋外での体育授業の禁止、水泳等の授業への影響もありました。

本全国大会の開催地は、近年、ローテーション方式が確立されてきました。福島県開催に当たっては、このローテーションの特例変更も示唆されましたが、あえて前述のような状況の中で推進している福島県の体育を見ていただこうと開催の決断をいたしました。サブテーマくふくしまの未来を担う心身ともにたくましい子供の育成を目指すは、その表れです。

詩人の高村千恵子は、「ふくしまにはほんとの空がある」と言いました。ほんとの空の下、未来を目指して活動しているくふくしまの子供たちをご覧いただけたと思います。

また、本大会の開催の機会を

得たことで、本県の幼、小、中、高、特別支援学校のそれぞれの研究組織がさらに充実し、大学等との連携を通して学校体育の研究体制が整備されたことが私たちにとってかけがえのない財産となりました。

かつて、浅田隆夫元本連合会長は、全国大会開催は、日本の学校体育全体の推進を図っているのはもちろんであるが、地域の学校体育振興の元作りでもあると、述べられたことを実感しております。

大会に参加いただきました全国の学校体育関係者の皆様、ならびに大会を成功に導いて下さった皆様に感謝を申し上げまして、大会の報告とさせていただきます。



# 第五十六回全国学校体育研究大会 和歌山大会開催にあたって

和歌山大会実行委員会 会長 西川 彰彦



第五十六回全国学校体育研究大会和歌山大会の開催にあたりご挨拶を申し上げます。

和歌山県では、平成二十五年に本大会の開催が決定されて以来、和歌山の子供たちが、生き生きと活動し、主体的に学ぶとする姿を、全国から来ていただく多くの先生方に見ていただきたく、大会に向けた準備を進めて参りました。

体育・保健体育においては、生涯にわたって、心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するため、幼児期から、運動の楽しさや、喜びを味わい、運動や健康への関心・意欲を高め、それぞれの課題に向けて、自ら考え工夫していく力

を身に付けていくことが、求められています。

今回の和歌山大会では、現行の学習指導要領を踏まえつつも、新学習指導要領への展望ももった大会と考え、大会主題を『主体的・対話的で 深い学び』を通して 自ら考え工夫していく力を身に付ける体育・保健体育学習』、サブテーマを、「自らが進んで 運動（遊び）に取り組み、仲間とともに高め合う姿を求めて」と設定し、昨年度より、

- 主体的に運動や遊びに向き合う子供たちの育成に向けた授業づくり
- お互いに高め合うことのできる学習過程や学習形態の在り方の研究
- 指導と評価が一体となった授業づくり

の三点を柱に据え、研究を重ねて参りました。

大会初日となる十一月九日（木）の全体会は、「和歌山県民

文化会館大ホール」で行います。午前中は、「開会式」を皮切りに、「表彰式」「基調報告」を行います。「基調報告」では、和歌山県のこれまでの取組、特に、上述の三本柱を中心に、研究を進めてきたことを報告させていただきます。

午後からは、「解説」、「シンポジウム」、「特別講演」を行います。「解説」では、スポーツ庁政策課教科調査官高田彬成氏より「学習指導要領改訂とこれからの体育・保健体育」について解説していただきます。「シンポジウム」では、コーディネーターの菊幸一氏（筑波大学）と、

全国から集まっていたいただいた五名のシンポジストの先生方に、「新幼稚園教育要領・学習指導要領を踏まえた授業づくりに向けて」というテーマで討論をしていただきます。全体会の最後を飾る「特別講演」では、帝京大学ラグビー部監督の岩出雅之氏に「常に進化を目指して

」学生選手の未来に繋がる指導のあり方」と題して講演していただきます。学生スポーツの頂点を極める中で、技術面のみならず、チームスポーツとしてまた個人の生き方としての精神面等でも学生たちを教え導いてきたその指導法の中で、私たちの今後の取組につながる多くの示唆をいただけるものと期待しております。

翌十一月十日（金）には、幼稚園一園、小学校四校、中学校四校、高等学校二校、特別支援学校一校、合わせて十二園・校で、「公開保育・授業」「研究発表・研究協議」を行います。和歌山県が各校種で取り組んできた、各発達段階に照らして工夫された教具・用具、学習の場や、生徒一人一人が学び合い高め合う関係づくり、そしてまた「自分ができる」、「自分は理解している」のみではなく、「自分ができることを相手に説明する」、「理解していることやできるこ

とを活用し、新たな課題を解決する」子供たちの姿を、さらに、学習過程・学習形態の在り方、指導と評価が一体となった授業づくりをご覧いただければ、と思います。

本大会の開催の機会を得たことで、本県の、体育・保健体育関係者が得たものは、言葉では言い尽くせません。県内各校種において、日々、よりよい授業・保育を求め、研究・実践に取り組んでおりますが、本大会を機に、さらに大きな視野で、新しい視点で、そして多くの仲間と研鑽し合う中で、学校体育の研究が、さらに充実していく過程が、私たちにとって素晴らしい充実した時間となり、そして財産となりました。

大会当日には、全国の学校体育関係者の皆様に多数ご来県の上、体育学習の在り方をご覧いただき、御意見や御指導を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶といたします。



| 第6分科会                                                                                                                                                                                                                         | 和歌山市立貴志中学校 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①球技（バレーボール） ②球技（バスケットボール）                                                                                                                                                                            |            |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>体育学習における主体的・対話的で深い学び                                                                                                                                                                                |            |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>誰かが答えを出してくれるのを待つのではなく、一人一人が考えや知識、知恵を持ち寄り、主体的に答えを創り出し、高めあおうとする姿を見ていただきたいと思います。                                                                                                                       |            |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：子供達がチーム・個人の実態に応じて課題を設定し、ゲームを通して、その課題解決のためにどのような練習をし、どのような戦術や作戦を工夫するのか、学びあいながら活動する姿をご覧ください。<br>公開②：チームや自己のめあて・課題を設定し、その課題解決に向けて計画を立て、子供達自ら授業やゲームの運営をし、チームでの話し合いを大切にしながら自主的・自発的に取り組む姿をご覧ください。 |            |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b><br>和歌山大学 村瀬 浩二                                                                                                                                                                                           |            |

| 第5分科会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 有田川町立藤並小学校 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①保健「病気の予防」 ②器械運動「マット運動」（後転）<br>③器械運動「マット運動」（側方倒立回転）                                                                                                                                                                                                                                                                            |            |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>『子ども1人1人が運動のおもしろさを探求する授業』<br>～仲間と対話し主体的に学びを深める活動を通して～                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>自分から積極的に試し、みんなで話し合い・教え合いながら、学習のレベルをもっと高めていこうとする児童の育成を目指しています。                                                                                                                                                                                                                                                                 |            |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：本時は薬物乱用の害の授業を行います。薬物乱用が心身に与える害、依存性、社会に与える影響といった薬物乱用に関する基本的な知識を身につけていきます。また、児童たちが自分の力で知識を獲得していく学びの軌跡に注目し参観していただければ幸いです。<br>公開②：児童が、「勢いのある後転」を習得するためのめあてに向かって、技に取り組み、課題やポイントを発見していきます。それらを仲間と見合い、教え合いながら意識することで、技がレベルアップしていく姿をご覧ください。<br>公開③：側方倒立回転を習得するためのポイントを、グループで相談しながら見つけ出します。課題解決に向けて、児童1人1人がかわり合いながら学ぶ姿をご覧ください。 |            |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b><br>日本大学 水島 宏一                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |

| 第8分科会                                                                                                                                                                              | 紀の川市立貴志川中学校 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①器械運動（跳び箱） ②球技（ハンドボール）                                                                                                                                    |             |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>自らが進んで運動に取り組み、課題を解決することができる体育学習<br>～仲間とともに高め合う姿を求めて～                                                                                                     |             |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>男女共習の良さを活かし、ワクワク・ドキドキするような授業、教え合いや意見を伝え合う子ども中心の授業をしていきたいと考えています。                                                                                         |             |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：それぞれの班で、ICT機器を活用し、自分の技の出来映えを確認しながら、活動を進めていきます。成果と課題を明確にし、技の完成を目指す生徒の活動をご覧ください。<br>公開②：ゲームに向けた練習方法の工夫や、課題解決に向けたチームでの関わり、懸命に取り組む生徒のイキイキした姿をご覧ください。 |             |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b><br>宮崎大学 三輪 佳見                                                                                                                                                 |             |

| 第7分科会                                                                                                                                                                                                         | 海南市立第三中学校 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①球技（バドミントン） ②武道（剣道）                                                                                                                                                                  |           |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>仲間とともに自己教育力を育む体育学習                                                                                                                                                                  |           |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>仲間と協力し、アドバイスなどによって自己の課題を見つけ、グループみんなで楽しく技術の向上を目指していけるような、そんな体育の授業をデザインしていきたいと考えています。                                                                                                 |           |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：各グループで課題を決め、課題解決の為に、グループが協力しながら練習方法を選択します。話し合いながら、お互いのプレイに対して声掛けをしている姿をご覧ください。<br>公開②：授業の展開の後半にグループによる自由練習の時間を設定しています。お互いが動きを見合ったり、映像研究したりする中で、得意技を見付ける活動を通して、学び合う姿をご覧ください。 |           |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b><br>大阪体育大学 神崎 浩                                                                                                                                                                           |           |



| 第10分科会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 和歌山県立那賀高等学校 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①球技（ゴール型 ラグビー） ②武道（剣道）                                                                                                                                                                                                                                                                                       |             |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>男女共習による協働的な学びを通して自ら考え工夫していく力を身に付ける体育学習                                                                                                                                                                                                                                                                      |             |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>男女共習による協働的な学習を通して、主体的に考え工夫し、互いに高め合うことができるような授業を計画し実践します。授業を通して生涯スポーツにつながるような資質や能力を伸ばしていきたいと考えています。                                                                                                                                                                                                          |             |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：試合において「プレイする・審判する・観戦する」という生涯にわたってスポーツに親しめる要素を取り入れました。グループ学習においても、それぞれの観点での振り返りを行っています。また、みんなが楽しめるルールも生徒たちが考えました。生徒一人一人が自己の役割を考えて行動し、仲間と協力して創りあげる「男女一緒でも楽しめる全員参加型の試合」をご覧ください。<br>公開②：戦術的な対人技能を発揮するという課題に向けて、これまで学習した内容を生徒が主体的に工夫する授業を行います。互いに観察し、気付いたことを話し合い、協力して課題解決に向け練習するといった学び合う姿を見ていただきたいと思います。 |             |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b> 早稲田大学 吉永 武史                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |             |

| 第9分科会                                                                                                                                                                                                                 | 有田川町立吉備中学校 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①器械運動（マット運動） ②ダンス（リズムダンス）                                                                                                                                                                    |            |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>みんなが『主体的』を理解・意識し、共に学び合う授業                                                                                                                                                                   |            |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>視聴覚機器・学習カード・作戦ボードなどを工夫して、生徒が主体的に取り組む姿をご覧ください。                                                                                                                                               |            |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：授業前半では個人技能を高め、後半では高めた技能を用いて、思考力・問題解決能力を養います。1つの演技を構成する過程において、生徒が対話しながら、主体的に取り組む姿をご覧ください。<br>公開②：グループ内外で交流しあいながら、基本ステップをアレンジしていきます。作戦ボードを使って対話しながら様々なアレンジを考えます。主体的に協力して取り組む姿をご覧ください。 |            |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b> 埼玉大学 細川 江利子                                                                                                                                                                                      |            |

| 第12分科会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 和歌山県立紀北支援学校 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>①中学部 体づくり運動（長縄跳び）<br>②小学部 あそびの指導（サーキット運動）<br>③高等部 武道（なぎなた）                                                                                                                                                                                                                                    |             |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>「わかった」「できた」→「もっとやりたい!」と思える授業づくり～自立活動の視点から一人一人を見つめて～                                                                                                                                                                                                                                          |             |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>①主体的に取り組むため、個々の目標を確認し、評価し合いながら進めてきました。<br>②「体育」「自立活動」「生活」の教科・領域を合わせた指導を通して、「楽しい」「もっとやりたい」と主体的に活動できる授業を目指しています。<br>③基本動作の習得から始まり、習得した様々な技能を発揮して一つずつ意識して演武に取り組む姿をご覧ください。                                                                                                                       |             |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①：失敗しても大丈夫!褒め合うことを大切にしています。自分の目標達成のため、全員で動画を確認し、みんなで話し合い、意欲的に取り組んでいる姿をご覧ください。<br>公開②：児童の実態に応じて、自分のもっている力を発揮できれば達成できる課題の設定や主体的に取り組むための工夫をしました。ゴール時の笑顔や発声等をご覧ください。<br>公開③：前半は学年別に演技・防具の技を披露します。3年生は3年間の集大成です。後半は音楽に合わせた「リズムなぎなた」を披露します。全員で一つの演武を完成させる姿、振り返りの場面での自己効力感をもって主体的に学ぶ姿をご覧ください。 |             |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b> 関西国際大学 中尾 繁樹                                                                                                                                                                                                                                                                                      |             |

| 第11分科会                                                                                                                                                                                                                         | 和歌山県立桐蔭高等学校 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <b>&lt;公開授業領域&gt;</b><br>公開①体育 球技：ゴール型(バスケットボール)<br>公開②体育理論（4. オリンピックと国際理解）                                                                                                                                                    |             |
| <b>&lt;分科会研究主題&gt;</b><br>男女共習・ICTの活用による、協働的・対話的な学びを深める体育学習                                                                                                                                                                    |             |
| <b>&lt;授業の見どころ&gt;</b><br>①生徒が主体的に授業に取り組み、個人及びグループの課題に対して仲間と協力しながら、課題解決していく過程のなかで合意形成能力が育まれるようにしていきたいと考えています。<br>②主体的・対話的な学びの中で、生徒たちが自分たちの意見を大切にしつつ、ペアやグループのメンバーの意見を素直に受け入れ、意見をまとめ、他者に要点について説明できる授業を目指します。                     |             |
| <b>&lt;授業者の思い・意気込み&gt;</b><br>公開①バスケットボールの個人技能の向上及び、チームの戦術を工夫・改善していく過程のなかで、生徒同士で主体的に学び合いながら活動する姿をご覧ください。<br>公開②生徒たちが緊張せず普段通りの発言ができるように、授業を進行していきたいと思っています。クラスの雰囲気等が普段通りに保てるように、場面作りを心がけていきますので、生徒のいきいきとしたグループワークや発表する姿をご覧ください。 |             |
| <b>&lt;指導助言者&gt;</b> 茨城大学 吉野 聡                                                                                                                                                                                                 |             |



### 和賀郡西和賀町立沢内小学校（岩手県）

#### <研究主題>

「子どもが輝く授業」

—体育科における指導法の改善を通して—

#### <研究の目的>

肥満傾向の児童、生活習慣の課題等の解決に向け、運動量の確保、基礎基本の確実な定着を図る授業実践から体力向上を目指す。

#### <研究内容と成果>

- 授業の理解、めあてに応じた達成感や成就感を味わう。（子どもが輝く）
- 確かな学力を保障するとともに、教師の授業力を伸長させる。（授業の創造）
- 「よい体育の授業」の観点に基づき、運動量の確保等、授業の充実を図る。
- 「形成的授業評価」を行うことで授業評価から授業実践への改善を図る。
- 業間時間等、教科外における体育活動も児童会の取組により推進する。
- 家庭や地域との連携による教育の充実に努める。

運動量の確保、基礎基本の定着に向けた授業の実践により、体育授業の充実が図られ、体力の向上が見られた。また家庭との連携により、生活習慣の改善、肥満児の減少につながった。

### 川口市立慈林小学校（埼玉県）

#### <研究主題>

「仲間と力いっぱい運動し健康でたくましいじりん子の育成」

—自ら課題意識をもち、ともに学び合い、主体的に学ぶ授業の創造—

#### <研究の目的>

「運動が好き」「運動習慣がある」と回答した児童が少ない実態を改善するとともに、体力の向上を図る取組を推進する。

#### <研究内容と成果>

- 明確な仮説をもとに、研究の方向性を見据えて組織的に取り組む。
- 体づくり運動を中心に、自校体操、体力アップタイムの実施による体育授業の充実を図る。
- 1 単元、1 時間の授業で、運動の質の高まり、体力向上が図れる授業を実践する。
- 外遊びの奨励や全校による取組を推進し、体育的諸活動の充実を図る。
- 家庭との連携を図り、長期休業期でも継続的に体力向上に取り組む。

「体力アップタイムの実践による体力の向上」「体育的諸行事の充実等による運動好きの児童の増加」等の成果が確認できた。また、体力の向上と生活習慣が密接に結びついていることから、家庭との連携の重要性を確認し、継続の必要性を認識した。

## 平成29年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介

### 山崎 稔英（やまざき としひで） 札幌市立宮の森小学校（北海道）教諭

#### <実績>

北海道学校体育研究連盟事務局研究部員として連盟事業の運営に参画  
全道研究者担当研修会授業公開、札幌市教育委員会小学校体育科教育基礎の講師 等

#### <体育授業における実践>

- 課題探求的な学習を取り入れた授業の充実、課題解決を図る授業の構築方法の実践と提案
- 児童の実態を的確に把握し、積極的に関わることによる技能の向上

### 生駒 大輔（いこま だいすけ） 北上市立北上中学校（岩手県）教諭

#### <実績>

岩手県小学校・中学校体育・保健体育研究大会北上大会授業公開（予定）  
「地区別授業改善研修会」授業公開、体力向上指導者養成研修会講師

#### <体育授業における実践>

- 生徒の意欲の喚起と体力・運動能力の向上のための、常に探究心をもった授業づくり
- 技能のポイントを明確にし、生徒同士の関わり合いによる技能の定着を図る工夫した展開

### 小島 大樹（こじま だいき） 調布市立第三小学校（東京都）指導教諭

#### <実績>

東京都小学校体育研究会ゲーム領域部会 正副部長  
第52回全国学校体育研究大会東京大会授業公開、全国学校体育指導者講習会実技講師

#### <体育授業における実践>

- 児童の知識・理解の定着、思考力・判断力・表現力を高める指導の実践
- 教師の有効な発問による、児童自身によるポイントの発見、進んで学習に取り組む姿勢喚起

### 近藤 拓自（こんどう たくじ） 新潟市立東山の下小学校（新潟県）教諭

#### <実績>

新潟市教育研究協議会、体育授業づくり研修サークル研修委員長  
新潟市小学校教育研究協議会授業公開、新潟県体育学会発表者

#### <体育授業における実践>

- 系統性を大切に、技の習得につながる感覚づくりを主体とする工夫した取組
- オノマトペによる表現により、児童自身にタイミングや姿勢を思考させる効果的な実践

### 馬淵 昭宏（まぶち あきひろ） 岐阜県立岐阜高等学校（岐阜県）教諭

#### <実績>

第53回全国学校体育研究大会授業公開  
「生涯スポーツにつながる長距離走の授業づくり」寄稿

#### <体育授業における実践>

- 単元特性を踏まえた生徒の意欲を高めるための取組の工夫
- トレーニング方法の組み合わせによる自己や仲間の課題に応じた課題解決学習の実践

# 平成29年度 全国学校体育実技指導者講習会について

## —実技内容のポイント—

### 幼稚園・保育園の部

主題…運動あそびの充実感につながる環境構成と援助のあり方  
日時…七月二十五日(金)

会場…千代田区立千代田小学校  
体育館・プール

参加者…三十一名+学生七名

前回の研修をさらに進め、子供たちの運動あそびの充実感・満足感につながる安定した活動を導く手立てについて学習する。

◎講座1「幼児の体を動かす遊びを計画する視点について」(講義)

講師 東京女子体育大学 体育学部講師 末永祐介先生

幼児期運動指針及び幼児期の動に関する指導参考資料に基づき、幼児の体を動かす遊びを計画する視点とその環境設定について、具体例を基に学んだ。

◎講座2「綱引きを安全に行うために」(講義・実技)

講師 公益社団法人日本綱引連盟理事・技術審判委員長 中山二三男先生

綱引きを安全に行うための綱の握り方や引く姿勢等の競技特性について解説を聞き、安全に楽しく且つ効率的な綱の引き方についてチーム対抗で実践ゲームをした。

◎講座3「遊びとは何か?その

### 理解と取組」(実技)

講師 東海大学体育学部生涯スポーツ学科 准教授 知念嘉史先生

「遊び」や「楽しい」などの本質を理解することで、子供たちが自ら体を動かし楽しく遊ぶことができる環境づくりやプログラムについて、各種の用具の特性を知り、それを活かした遊びの紹介がたくさんあり、実際に動きを体験した。

◎講座4「保育内容としての水あそび(その2)」水あそびから水泳指導へ」(実技)

講師 元東京学芸大学特任教授 後藤一彦先生、飯田女子短期大学非常勤講師 田中美智子先生

温水プールにて、二班に分かれ幼児期の水遊びについて、水の特性を理解したうえで遊び化やより楽しめる運動補助のし方



について実際に水の中で体験をした。

◎講座5「幼児のための身体表現」(実技)

①オリンピック・パラリンピック教育推進ガンバダンス「強く美しく」

講師 帝京大学大学院 教職研究科 准教授 村上みな子先生

◎幼児のための身体表現の導入  
講師 横浜国立大学教育人間科学部 教授 高橋和子先生

前半はJOC公式オリンピック日本代表選手団テーマソングのガンバ(がんばれ!)ダンスを曲に合わせて楽しく踊ることができた。後半は幼児期に身につけておくべき「走る」「跳ぶ」「転がる」等の三十六種類の基本動作について、遊び感覚で実際に動いてみた。さらにはイメージを動きにすることをグループ毎に体现し、身体表現の面白さを学んだ。

### 【今回のポイント】

会場の千代田小学校のご協力により、冷房の効いた体育館・温水プールなどで気持ちの良い実技講習会が開催できた。合計五講座が実施されたが、幼稚園教育要領などが改正(告示)され、平成三十年度から施行されることもあって、どの講座もそれを意識した内容が組み込まれていた。

ていた。

受講生は時に幼児に成り切り、よく聴き・よく動き・考えを出し合い、互いに工夫・協力して、自園へのお土産をたくさん持ち帰ることができた実りある指導者講習会であった。



### 小学校の部

一日目 七月二十五日(火)  
会場…中央区立中央小学校

受講者百六十名(東京都、青森県、新潟県、愛知県等から参加)

①器械運動

講師 台東区立大正小学校副校長 難波誠二先生(屋上校庭)  
他東京都小学校体育研究会器械運動領域部員五名

◎前転グループの技

●様々な前転●大きな前転●開脚前転●伸膝前転●跳び前転

◎後転グループの技

●ゆりかご・大きなゆりかご(足を速く振り上げて)●後転

●開脚後転●伸膝後転(段差を利用した伸膝後転)

◎倒立回転グループの技



● 跳び箱を置いて川跳び ● 大きな動作での腕立て横跳び越し

● 手、足の位置を視認化するための練習方法 ● ロンダート

○ 倒立グルーブの技

● 五点支持から三点支持への重心移動 ● 壁倒立(壁登り逆立ち)

● 補助倒立

☆ 技のグルーブごとに補助の仕方を含めて段階的な指導法を研修した。



## ② 体づくり運動

講師 筑波大学教授 長谷川聖修先生 日本Gボール協会 沖田祐蔵先生

○ 二人組でのウォーミングアップ

● スタートポジション(ボールにうつ伏せの姿勢) ● 座って弾ませる運動

○ Gボールを操作する運動遊び ● お腹サンドイッチで回転

○ Gボールにのる運動

● 片手上げ→両手上げバランス ● 仰向けでブリッジをして回転させる運動(おせんべい・やけたかな) ● 座って後傾、ペア支

える ● 四点支持からの膝立ち姿勢

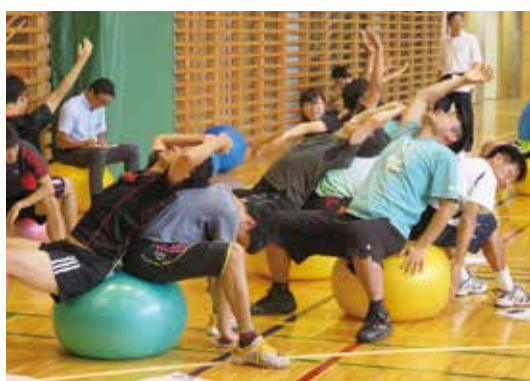
○ Gボールではずむ運動遊び

● うつ伏せ姿勢で片足交互ばた、両足ばた ● 座ってパンチ、キック ● 座ってから弾みを利用して立つ

○ 体を移動する運動遊び

● スーパーマン ● 仰向け姿勢でのすべり台

☆ Gボールを使う際の安全についても実技を通して研修した。



## 二日目 七月二十六日(水)

### ③ ボール運動

講師 早稲田大学教授 吉永武史先生

○ プレールボールを基にした易しいゲーム

● プレールパス(こぶしでなく、ペアでもよい) ● 連係プレーを意識した三角パス ● 三対三の

ゲーム(ラリーを続けることが楽しいゲームを行う)

○ 新学習指導要領で例示された低学年の「ボール投げゲーム」

○ ソフトバレーボールを簡易化したゲーム

● 落下地点に早く入るキャッチゲーム ● 役割を意識したゲーム(セッターの役割) ● 三人でつ

ないで攻撃するルールの工夫・キャッチートスーアタックナブ

ロック等課題に応じて選択 ● チーム課題を視覚化できるゲーム記録の活用

☆ 参加者がネット型ゲームの系統性を理解でき、新学習指導要領の考え方にも触れた講義内容であった。



## ④ 体づくり運動 多様な動きをつくる運動(遊び)

講師 信州大学教授 渡辺敏明先生 他二名

○ 体を使った運動遊び

● なべなべ底抜け ● またいでくるりん返し ● 石地蔵 ● 正座からジャンプをして立ち上がる ● 体

じゃんけん ● グリコじゃんけん ● しゃがんでびよんぴよんパランス崩し

○ なわを使った運動遊び

● 目をつぶってなわの上を歩く遊び ● 一回旋二跳躍のなわに入る二人跳び・前から後ろから

入り方を変えて ● 輪かけ跳び移動しながら横並びに並んだ相手をなわに入れていく

○ 新聞紙を使った運動遊び

● 新聞紙を落とさずスペースを見つけて走る遊び ● 丸めた新聞紙を投げ上げて、手をたいてから取る

○ ボールを使った運動遊び

● ボールを手で回す ● 膝つきドリブル ● 立ち上がりドリブル ● ペアで手をつなぎながらのドリブル

☆ 各種の運動遊びを通して身に付けられる動きを数多く研修できた。

○ ボールを使った運動遊び

● ボールを手で回す ● 膝つきドリブル ● 立ち上がりドリブル ● ペアで手をつなぎながらのドリブル

☆ 各種の運動遊びを通して身に付けられる動きを数多く研修できた。



## 中・中等教育・高等学校・特別支援学校の部

日時：七月二十八日(金)

会場：東京都立飛鳥高等学校グラウンドおよび武道棟屋上プール

### ① サッカー

「重心移動の仕組みから考えるサッカー指導」

講師 鬼木祐輔 先生 明治大学体育会サッカー部トレーナー

まずサッカーに必要な要素である広い視野、瞬時に判断できる直感力などの状況判断の質を高めるウォーミングアップを行った。これらは、遊びのようなゲームの中で脳に刺激を与え、広い視野や直感力を養い、正しい判断を下せるようなトレーニングだった。





次にストレッチと呼吸法について、iPadの動画と並行して実践しながら詳しく指導していただいた。筋肉をコントロールしている呼吸を止めると、パフォーマンスが低下することを実感し、鎖骨・肋骨・骨盤・肩甲骨・顔の表情、姿勢などとの連動についても詳しく解説指導していただいた。

次にボールコントロールとして、リフティングにおける重心移動は「足だけでコントロールするのではなく、上半身を含めた身体全体で行う」重要性を実感できた。「止まり方」「方向転換」「サイドステップ」などの重心移動についても、身体の中から動くポイントや練習法も指導していただいた。

(参照動画：第29回全国学校体育指導者実技講習会サッカー  
[https://youtu.be/0P\\_RW2W6ajA](https://youtu.be/0P_RW2W6ajA))

## ②水泳

「授業に役立つ水泳の基本から四泳法の指導」

講師 清水智之先生 東京都立調布北高等学校校長

初めに視聴覚室において、水泳に関する基礎内容のプレゼンテーションで講義をし、プールに移動し授業展開に基づいた講習を行った。

導入の指導は、ストロークの

基本として上半身の動かし方であり、ローリングにおけるリカバリーは「力を使わず最短距離で戻す」ことを実践しながら解説指導していただいた。ウォーミングアップとして、手先だけでなく肘や腕全体を使った「渦潮作り」、「8の字スパーリング」を仰向けとうつ伏せ練習では、顔の位置をしつかりと上げたままに保ち、呼吸を確保する、恐怖感を与えないという内容だった。次に、「壁をキックしてスタート↓蹴伸び↓犬かき」では、手のひらの使い方と手首の角度でコントロールすることで事故防止、ゆつくりから速く、弱くから強くなど、水の抵抗を考えさせる動きをご指導いただいた。犬かきも、頭の位置を保ち、呼吸を確保する、恐怖感を与えないという内容だった。



四泳法に関しては、初心者を目指す際に、右半身と左半身別々に意識させる練習方法が有効であるという内容が新鮮だった。バックとクロールでは、身体のを軸をずらさずローリングすることが重要であり、修正練習として「スイッチスイミング」や「バック↓クロール↓バック↓クロール」と交互にリラックスして水を感じる感覚を体験した。平泳ぎでは、ウエッジキック(カエル足)とウィップキックの使い分けを指導していただいた。バタフライは、コースロープを使ったユニークな練習法を紹介していただいた。ストロークのポイントは、胸を張り肩を後ろにすること、リカバリーの手は空中で手のひらが上などという内容だった。イルカとびからドルフィンキックなど技能習得の過程が大変参考となった。

全体を通して、1つの練習にこだわらず、様々なバリエーションの練習に取り組ませることによって、トータルで泳げるようになるという考え方の指導が印象的であった。

(参照動画：第29回全国学校体育指導者実技講習会 水泳  
[https://youtu.be/f\\_c0HxhUbbc](https://youtu.be/f_c0HxhUbbc))

# 平成二十九年 度 ジャス ペ 足 育 (あしいく) の 推 進 に つ い て — 足 が 変 わ れ ば 『 明 日 』 が 変 わ る —

ギリシャ神話に由来するパラ  
しいく)

ドックスの中に「テセウスの船」

がある。自分が自分であるため

にこそ、変わらなければならな

い。と訴えているように感じる。

学体連足育は、次の課題に対

応するためその名称を『ジャス

ペ足育』と称することとした。

## 一 提案理由

(一) 商業的色彩が強く本会が  
推進している「足育」の趣旨と  
は異なる他法人による事業がみ  
られる。

(二) 場合によってはネガティ  
ブな印象を持たれるリスクが存  
在する。

(三) 「足育」「足教育」は、公  
知の名称となっているため、そ  
の使用権を本会のみが占有でき  
ない。したがって、「足教育」  
という名称に変更したとして  
も、他団体がそれを使用するこ  
とを禁じられない。

## 二 新名称

「JASPE足育」ジャスぺ  
(Japan Alliance for School  
Physical Education) 足育(あ

## 三 本名称の特徴

(一) 類似事業名と競合するこ  
とはない。

(二) 「ジャスぺ」の学体連英文  
表記の周知の機会となる。

## 四 新名称を周知する方策

(一) ホームページに新名称を  
掲載する。

①目的…「足育」を称する他の  
団体との事業主体や趣旨、執  
行体制等の違いを明確にし、  
学体連関係者をはじめ、各学  
校(園)のみならず広く社会  
に周知し、足育についての誤  
解を生じさせず、足育事業を  
さらに推進するため。

②ジャスぺ足育の他団体との違  
いを明確にする。

○足かけ七年間にわたる実証授  
業研究に裏付けられた内容で  
ある。

○学校の教育課程に位置づけら  
れるようにすることを意図し  
た取組(全体計画、指導計画、  
四五分間の全学年の保健指  
導、学級活動、委員会)

○講演・模擬授業など一切無料

である。

○研修を重ねた現場の小学校教  
員が指導を行う。

○すでに二集の指導資料を発  
行、来年度には第三集を発行  
予定の実績をもつ。

○足の専門医をはじめ、大学学  
識経験者、現場の幼稚園・小  
学校教諭、養護教諭が足育推  
進委員会、調査研究委員会を  
組織し、足育の教育内容の客  
観性と実証性の検証に努めて  
いる。

○公益財団法人日本学校体育研  
究連合会と、その賛助会員で  
ある「日本教育シューズ協議  
会」との共催による公益事業  
である。

(二) 各都道府県学体連に通知  
する。

(三) 足育佐賀全国大会、和歌  
山全国大会にて新名称をアピ  
ルする。

次に、この一年の歩みを振り  
返り、これからの取組を記す。

## 一 足育推進委員会十四回

①『ギョツと足育』十分間で

きる足育の導入

②福島全国大会への対応

③靴教育の受講①⑤

④推進園・校の実施状況の把握  
とその支援

⑤推進園・校のデータ分析

## 二 足育調査研究委員会十回

①調査項目の検討について

②足育実態調査の調査項目の修  
正

③調査の実施と分析

④高輪幼稚園実践報告会の報告  
内容への助言

三 出前授業・講演

①高輪幼稚園二回

②小学校・葛飾区立松上小学校  
二回、杉並区立高井戸第三小  
学校、練馬区立早宮小学校、  
南町小学校、江戸川区立船堀  
第二小学校、墨田区立業平小  
学校、熊本県益城町立安西小  
学校、福島県郡山市立大成小  
学校

○園児…三十五名

○児童…八百二十九名

○保護者…三百十二名

○合計…千百七十六名

## 四 平成二十九年 度の 取 組

(一) 足育研究推進幼稚園・小  
学校発表会

①平成二十九年六月二日(水) 港  
区立高輪幼稚園

○来賓・参加教員八十八名

②平成三〇年一月二三日(火) 葛  
飾区立松上小学校

(二) 出前授業

○杉並区立高井戸第三小学校

○江戸川区立船堀第二小学校

○練馬区立南町小学校

○杉並区立桃井第三小学校

○葛飾区立金町小学校

(三) 全国大会佐賀県

平成二十九年八月十日(木)十一  
日(金)

会場 楊柳亭

(四) 活動内容

①靴教育の取り組み内容の研修  
と指導計画の明確化

②ジャスぺ足育マイスターの内  
容の検討

③第三集の作成(幼稚園におけ  
る足育を加える)

④委員会活動における足育の取  
り組みについて

⑤足育フェスティバルの実施計  
画の作成

# 調査研究

足の専門医をはじめ、大学学識経験者、現場の幼稚園・小学校教諭、養護教諭で足育調査研究委員会を組織して、教育内容の客観性の実証的検証に努めている。

## 調査研究の目的

○足育の必要性と、足育プログラムの有効性を客観的に検証する。

○足育プログラムの再現性と、学習内容の維持効果を検証する。

**足についてのアンケート** (公財)日本学校体育研究連合会 足育調査研究委員会  
(低学年・授業前・2ヵ月後)

立 小学校 年 組 番

- 1) うんどうやスポーツをすることは好きですか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 2) 体育のじゅぎょうは好きですか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 3) あさごはんをまいにち食べていますか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 4) まいにち、何時くらいに寝ていますか。  
(9時前・9時から11時・11時より後)
- 5) まいにち、何時くらいにおきていますか。  
(6時前・6時から7時・7時より後)
- 6) じふんの足の長さをしていますか。  
(している・しらない)
- 7) じふんの足のよこばをしていますか。  
(している・しらない)
- 8) 外はきでよくはいているくつはどれですか。  
あてはまるものにひとつをつけてください。

ベリベリ (くつむし) がない  
( )

ベリベリがうらがわから 外にむかって ついている  
( )

ベリベリが外から うらがわにいつて おりかえしている  
( )

ひもくつ  
( )

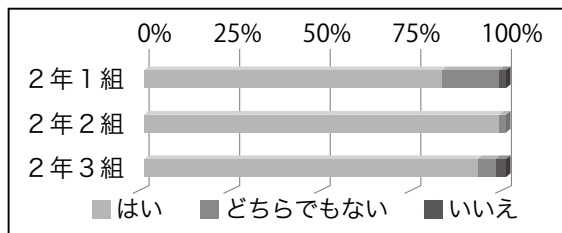
- 9) くつのはき方に気をつけていますか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 10) 9)で「はい」とこたえたかたへ  
それはどうですか  
親に言われているから ( ) 先生に言われているから ( ) じふんでかんがえた ( ) (うらもあります)

**足についてのアンケート**  
(低学年・授業直後用)

- 1) 今日べんぎょうしたことは、じふんにどつて たいせつなこととおもいましたか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 2) 今日のべんぎょうで、はじめてわかったことがありますか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 3) 2)で「はい」とこたえたかたへ。  
はじめてわかったことはなんですか。わかったことを書いてください。

- 4) 今日のじゅぎょうをきいて、これからじふんの足の長さに合ったくつをはこうとおもいましたか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 5) 今日のじゅぎょうをきいて、これからくつのはき方に気をつけようとおもいましたか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
- 6) 今日のじゅぎょうをきいて、足ゆびをつかったうんどうをこれから はじめようとおもいましたか。  
(はい・どちらでもない・いいえ)

グラフ 質問1 今日勉強したことは、自分にとって大切なことだと思いますか。



- 14) くつのはき方・はき方であてはまるものにひとつをつけてください。

14)-1 (くつのめざかた)

  
ベリベリ (くつむし) を やるめしないでそのまま ゆるめてからめく  
( )

14)-2 (はじめ-どのように足をいれるか)

  
ベリベリ (くつむし) を やるめしないでそのまま ゆるめてから足をいれる  
( )

14)-3 (とちゅう-どこをトントンするか)

  
つま先をトントンする  
( )

14)-4 (さいご-どうやってとめるか)

  
なにもしない  
( )

異なる授業者が同一の学習指導案を展開し、学級間の意識を調査することにより、足育プログラムの再現性を検証する。

現在、調査中であり、足育プログラム第3集において公表する予定である。

## 足育調査研究委員会委員

- 岡出美則 (学体連理事長 日本体育大学教授・委員長)
- 早川家正 (日本教育シユーズ協議会理事長)
- 井口傑 (元日本靴医学会理事 長)
- 吉村眞由美 (早稲田大学人間科学学術院招聘研究員)
- 湯田厚子 (全国養護教諭連絡協議会副会長) 郡山市立体育大成小学校養護教諭
- 新山裕之 (足育推進園・港区立高輪幼稚園前園長) 港区立青南幼稚園園長
- 柿沼敦子 (足育推進園・港区立高輪幼稚園園長)
- 倉前広子 (前足育推進園・江戸川区立船堀幼稚園教諭)
- 内木勉 (足育推進委員長 練馬区立大泉北小学校校長)
- 眞砂野裕 (足育推進委員 昭島市立成隣小学校副校長)
- 濱田哲 (足育推進委員 台東区立千束小学校主幹教諭)
- 寺内周平 (足育推進校 葛飾区立新小岩学園松上小学校主任教諭・足育推進委員)
- 菅原健次 (学体連理事)
- 吉永武史 (学体連参与・早稲田大学准教授)



研究主題

「幼児の健やか心と体を育む指導の工夫——幼児の運動遊びへの意欲や健康な体への関心を高める実践を通して——」

港区立高輪幼稚園

はじめに

本園は、平成二十八年度に公益財団法人日本学校体育研究連合会から足育研究推進園として委嘱を受けました。早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員吉村眞由美先生からのご指導と学体連足育調査研究委員会並びにJES（日本教育シューズ協議会）のご協力をいただき、家庭と連携しながら園内研究の取組の一つとして「足育」を推進して研究を進めてきました。

今回の教育要領の改訂では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の一つとして「健康な心と体・幼児が幼稚園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出せるようになる」と明記されました。本園では幼児の実態からこの姿に視点を当てて研究を進めています。今回は足育研究推進園として研究報告の機会をいただき、研究の途中ですがその取組を報告させていただきます。（港区立高輪幼稚園 長 柿沼敦子）

研究の経過

平成二十七年、「主体的に遊びに取り組む幼児の育成」——多様な動きを引き出す環境の工夫——について、園内研究に取り組んできた。当時の本園の幼児の気になる姿として、運動的な遊びに気持ちが向かない、できないことをすぐに諦めてしまうなどがあり、姿勢が崩れる、体のバランスが悪い、偏平足、などの課題が見られた。そこで、幼児の体の状況を捉える体力測定や健康な体への指標となる土踏まずを調べる活動を行った。また、指導計画の検証及び改訂を行い、幼児が意欲的に体を動かして遊べる教材の開発に取り組み、運動遊びへの意欲と健康な体への関心が密接に関わっていることが分かり、幼児の運動遊びに意欲的に取り組む実践を積み重ねた。その成果を元に、昨年度より、足育研究推進園として足の発育や靴の選び方などについて視野を広げ、今年度は研究主題を「幼児の健やかな心と体を育む指導の工夫——幼児の運動遊びへの意欲や健康な体への関心を高める実践を通して——として、以下のように取り組んだ。

研究の方法

- 運動遊びへの意欲を高め、繰り返し挑戦したくなる環境と指導の工夫（教材開発、事例検討、指導計画の検証）
- 幼児の実態の把握（体力測定、足計測）
- 家庭との連携による足育の推進（親子での運動遊び、親子で手作り遊具製作、上靴の貸与、アンケート調査、講師による保護者向け講演会、足育コラムを園だよりに掲載）



運動遊びへの意欲を高める手作り遊具（何でもロープ）



繰り返し挑戦したくなる手作り遊具（牛乳パックぽっくり）



「探検隊の腕試し」イメージを付与させた体力測定



親子でフットプリンター体験（足計測）



JES 早稲田大学の講演会  
保護者対象の足育講座



早稲田大学 吉村先生より貸与された上靴の履き方についてご指導を受けました。

実践を積み重ねて事例検討を

健康な体への関心を高めるためには、基本的生活習慣が身に付いていることが大切である。「幼稚園大好き」（自己肯定感）、

（目的意識）という基本的な生活

三歳児では、「楽しいからや

四歳児では、三歳児での経験

いう成功体験を味わわせ、多様

五歳児では、これまでに積み



幼児の育ちには教師の指導が

実業事例

「たのしいからやりたい！」  
うさぎになってジャンプ遊び

学級全体で五歳児の店屋ごつ

「うさぎさんに変身！ピョン、

「ピョン、ピョン、ピョン」

## 〈環境と指導の工夫〉

●五歳児の店屋ごっこで楽しん

●教師が楽しんで取り組む姿を

●三歳児が自分で再現できるよ



ことが難しく、すぐに体勢が崩

れた。そこで、教師は座つて体勢を整えてから歩き出せるよう、廊下に椅子を置いた。椅子

に座ってから『牛乳パックぽつ  
ぷつ』を履くと立ちやすくなつ  
たため、教師は「立てるように

うっかな  
こんなふう  
にたると

「がんばったら出来た！」  
牛乳パックぽっくりでの遊び〜

三年保育四歳児六月

る。後日、裸足になり牛乳パックの親行活動に乗り、遊ぶ姿が、見ゆたせ、初め頃にはバランスを取って乗る

を感じた。

立てるようにになると、次は歩くことに組み始めた。最初はぼっくりのひもを持つ手と、足を連動させることが難しく、足指でひもを挟むが、緩めるとすぐに外れたため歩けなかった。繰り返す中で、足指にしっかりとひもを挟んでから歩き始めるようになった。その結果、少しずつ前に進めるようになって、「ここまで歩けるようになった!」「やった!」と、廊下を歩き回りながら喜ぶ姿が見られた。出来るようになった友達を見てやってみたり、友達を応援したりする姿が見られた。

● 親子

● バランスをとる、手足を連動させる、足指で挟むなど、普段あまり行うことがない足裏



足指で、しっかりと  
ひもを挟むのがポイント！

や足指の育成につながる動き

を経験させたいと考え、教材を開発した。強度や使う時のバランスなど熟考して素材を選び、工夫した。これを親子一緒に作る活動とした。

● 保育室前の長い廊下に遊びの場を設けることで、ぽつくりと歩いてみようとする意欲に足指でひもをつなげた。

●廊下に椅子を準備し、落ち着いてぼつくりを履くことができるようにした。

● 幼児の気持ちに共感しながら  
応援したり、認めたりする言  
葉を掛けた。

● 親子で作つたため、牛乳パツクぼっくりへの愛着がわき、使つて遊ぼうとする意欲にながつた。

円の中で「対一のタグ取りをす  
とできるようなになりたいオザ」を提案した。ス  
リング（二対一）タグ取りで「デジヤネイロオリ  
返し挑戦する楽しさを感じて」、ビックを見たこ  
と、タグ取り保育5歳児9月。

ひが見付からず、動きやルールが伝わりやす  
 児と 児。教師はその動きを  
 にしたいと考え、四の動きを示すと、周りにいい  
 ング取りをするた幼児も興味をもち遊びに加わ  
 乗した。夏休みにな、オオ達同才対戦する相手を  
 アリンピックを演ぬてと、○○ぐんに初めて勝て  
 を繰り返し遊んできたと喜ぶあり、「○○くん  
 動きやルールが伝わりやす  
 教師が遊びに加わり、モデルの動！という気持  
 上座にちを幼児も興味で繰り返し行

していく中を、も、出逢ふは加わつたが、処事面を對また、自分たちなる面白き戦術策謀を練りあひて、〇〇と云ふに如く、転んだら最初い、自信をもつて、勝意欲的に取、喜かぢや、り直〇〇、同時にタグをり組んだ。少しは頑張りな出来！取つたら強持なけ」などのルーるものが、その時期の4歳児の返し行つた姿が、教師はそのやりの実態に合つた、また自分たちで、どちが、教師は、ルールをつくびが継続し、時にタグを取つたら引き分け、過程を支援した。レスを周りの友達の姿に影響を受けたり教師の進めは運動会の表現の遊びが、友達の遊びは運動会の表現の運動会、興味をもつた三・り組む意欲に、遊びは運動会の表現の運動会、興味をもつた三・

「もっとできるようにになりたい！  
くすリング（一対一タグ取り）で  
繰り返し挑戦する楽しさを感じてく

三年保育五歳児九月

遊びが見付からず、戦いごっこをするA児とB児。教師はその動きを遊びにしたいと考え



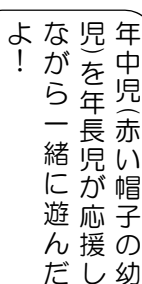
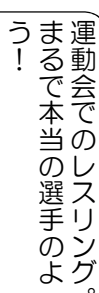
● リオデジャネイロオリンピック

- ## 〈考察〉

● 幼児に共通のイメージや経験があり、興味をもちやすかつたと思われる。・勝敗がつくことや友達や教師などの勝ちたい相手＝目標があることで、繰り返し取り組む意欲が高まった。

●自分たちでルールを考えたことが、意欲をもち、ルールを守って遊ぶことにつながった。

●五歳児が繰り返し楽しそうに取り組む姿や、運動会での姿を見ていた異学年の幼児の意欲や興味を引き出し、「一緒にやってみたい!」という思いにつながった。



手付金、東、冒子、

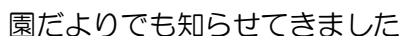
年中児（赤い帽子の幼児）を年長児が応援しながら一緒に遊んだよ！

足育なるほど！？通信

「意外と知らない足や靴のこと」

二十八年度 園だよりに掲載した園長コラムより

一部抜粋)



その2 足の指って

その何を足す増えるの？

何をしなむる指足は足にか  
5本の体重を付載せ、体  
かる体重を分散せしむ。  
のふまなを歩とり走り。跳ぶ  
またな歩何気走る、跳ぶて  
など何駄も足指の役割が  
る動きも足指の役割が。普  
とて膝突き足の指を、皆つ  
段から踵の指を、にかまし  
り動かすようにしまし  
よう。(引用文献：足音指導資料

第2集改訂版

・（引用）審叢三集（著）膳資料

運動遊びへの意欲が高まつてまゐると今後の課題繰り返して何度も楽しむ姿、4歳児は運動遊びに難意欲が湧き湧て張る姿、5歳の姿、歳児は繰り返して間度も一緒に目録意識見も諦めず挑戦する姿、足えたと難しいことを頑張つてみる繰り返歳児も挑戦をき緒に自陽意謙固を保障めずに挑戦す

(引用文獻是育指導資料  
第2集改訂版)

その4 靴下の重ね履きは×

足が冷えると靴下を重ねて履く人がいます。実はこれは逆効果です。靴下を重ねて履くと、足指が動かしにくくなり、血行が悪くなり、足は温まりません。足指を動かしやすい5本指ソックスを履くなどする工夫もあります。

履き 重 実 靴 指 行 り や 履 ま

た教材の提示が大切である。保護者と共に遊具を作ったことは、幼児にとっての挑戦意欲を引き出す大切な要素となった。

園生活の活動において基盤となる生活習慣が身に付くように、健康な心と体への関心を高めてきた。発達や年齢に応じて、きれいに整うことや、きちんとした状態を心地良いと感じる素地を培い、幼児が必要感を感じながら取り組めるようにすることが大切である。

親子活動や足計測、靴に関するアンケートなどの実施を通して幼児の運動遊びの実情や靴の選び方などを、保護者に知らせてきた。その結果、親子共に健康な体への関心が高まり、足のサイズに合った靴を選んだり、運動的な遊びを親子で取り組んだりする姿が見られた。

今後は、運動的な意欲が高まる教材の開発を進めるとともに、より発達に応じた指導が出来るように教師の指導力を向上させていくことが課題である。アンケートの集計結果や足計測の数値結果から実態を捉え、継続的に足育に取り組むことで変容を追っていきたい。今後、幼児の健康な心と体への関心が、高まるようにしていく。また、保護者への発信を続け、共に連携を図りながら進めていく。

本校では、葛飾区教育委員会  
教育研究指定校を受け、平成二  
十八・二十九年度の二年間、「心  
身ともにたくましい児童の育  
成」を研究主題に設定し、健康  
教育の研究に取り組んでいる。  
また、健康教育の一環として、  
日本学校体育研究連合会の足育  
研究推進校の指定を受け、『足  
育』を通して、自分の体に気付  
き、健康な生き方について学ぶ  
力を育てる』ことをねらいとし  
て、様々な取組を行った。

2 足育推進委員会による足裏  
のアーチのはたらきや足指体  
操、靴の履き方について、4  
年生への授業の実施。

3 五・六年生児童を対象とし  
た足の計測、靴のフィッティ  
ング、上履きの貸与の実施。

十一月中旬より上履きの無償  
貸与を実施、年度末まで継続使  
用を行う中で、児童の変化を継  
続的に観察、分析していく。貸  
与実施から、継続的に履き心地  
等のアンケートを実施した。初  
め、足に合った上履気に対して、  
「きつい」と感じる児童も多か  
ったが、正しい履き方の指導を  
継続し、靴がなじんでくるとほ  
とんどの児童が、「フィットし  
ている」「履き心地が良い」「歩  
きやすい、動きやすい」という  
感想を持つようになった。

また、以前から履いていた上  
履きと足に合った新しい上履き  
を履いての反復横跳びや立ち幅

跳びの測定を行った。ほとん  
どの児童が足に合った上履きを履  
いた方が、好記録を出した。

### 平成二十九年度の足育の取組

1 二・六年生児童を対象に足  
の計測と上履きのフィッティ  
ング

四月下旬に、二・六年生全児  
童を対象に実施。二・四年生は

簡易計測器を使った計測とフィ  
ッティングを行い、マジック  
テープ型の上履きを無償態を実  
施した。五・六年生は、簡易計  
測器とフットプリンターを使っ  
て計測・フィッティングを行い、  
紐の靴の貸与を実施した。

全校朝会等の時間を使い、靴  
の正しい履き方について指導を  
行う等、足に合った靴を正しい  
履き方で履いて生活をするよう  
に継続して指導を行った。実際  
に履いてみて、足に合わない児  
童については、再計測・フィッ  
ティングをしたり、個別に正し  
い靴の履き方についての指導を  
行ったりして、必要があれば交  
換をした。

また、学校の全職員について  
も、足の計測、靴のフィッティ  
ング、貸与を実施し、自分の足  
のサイズを知ったり、正しい靴  
の履き方について指導を受けた  
りして、児童への指導に生かせ  
るようにした。

### 2 足育授業の実施

足育指導資料の指導案をもと  
に、足育の授業を実施した。  
・一年生「げんきくんのげんき  
のひみつ」  
・二年生「足と元気のひみつ」  
・三・四年生「なるほど！足の  
ひみつ」  
・五年生「足と靴のひみつ」足  
育推進委員による出前授業。

### 平成二十八年度の足育の取組

1 保護者を対象とした講習会  
及び、足の簡易計測体験

日本教育シューズ協議会早川  
家正理事長による、保護者向け  
講演会の実施。

- ・足と靴についての話
- ・簡易計測器を使つての測定



足や靴について学び、理解を深めた。

#### 査を実施

四月下旬に保護者対象とした

足と靴についてのアンケート調査を実施した。(三九〇名分回収回収率約八五%)

靴の履き方について継続して啓発していく必要がある。

の充実と基本的生活習慣の確立を通して)を發表する。

### 3 全児童対象にアンケート調査を実施

四月下旬に全児童を対象に足育推進委員会で作成した「足についてのアンケート」を実施した。

項目は、「運動やスポーツをすることは好きか」「朝食は毎日食べているか」「毎日何時に寝ているか」等の児童の属性から、「足の長さを知っているか」「足の幅を知っているか」「現在はいっている靴や足のこと」「靴の履き方」等、足や靴に関する十五前後となっている。

関心の高さがうかがえた。

②子供の履き、外履きを買うポイント

上履き、外履きともに、品質やフィット感、履き心地よりも脱ぎ履きのしやすさや値段をポイントとすることが多く見られた。また、子供の気に入ったものという記述も多く見られ、正しい靴選びが今後の課題だと思われる。

に生かしていく。

③親子で健康に取り組む期間を設ける。足指体操を紹介し、家庭でも足元からの健康について、啓発を行っていく。

④足育週間を設定し、足をたくさん動かしたり、正しく靴を履いたりすることについて継続的に取り組み、足育の日常化を図る。

⑤平成三十年一月二十三日に葛飾区教育委員会教育研究指定校・足育研究推進校として、平成二十八・二十九年度の二年間における健康教育の取組(主題「心身ともにたくましい児童の育成」)を体育科授業

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

③子供の足や靴について気になっていること子供の足についてのトラブルについて、延べ五六〇件の回答があり、不安を抱えている保護者が多くいることが分かった。「靴のサイズが合っているかどうか不安」という記述も多数見られた。今後、正しい靴の選び方、

### 4 保護者対象にアンケート調査を実施

今後、正しい靴の選び方、

今後、正しい靴の選び方、



# 足育研修会（佐賀大会）

平成二十九年八月十日（木）

於 楊柳亭「二階大広間」

全国大会を翌年に控えた地域で夏季休業期間中に開催してきた足育研修会も五回目を迎えました。今年度、佐賀県で実施した足育研修会の様子をお伝えします。



## 主催者挨拶 日本学校体育研究連合会

会長 本村 清人

「本会は、来年度佐賀県で行われる全国大会のプレ大会の意味合いがあります。来年度、宜しく願います。また、JASPE足育の名前もぜひ覚えてください。」



## 主催者挨拶 日本教育シューズ協議会

理事長 早川 家正

「足育研修会は、年々内容が充実してまいりました。足元の健康を考える有意義な一日にしたいと思っております。よろしく願います。」



## 挨拶 佐賀県保健体育研究会

副会長 原口 憲明

「児童・生徒の靴を見ていると、大きすぎたり、底がへんにすれていたりすることを感じていた。研修を指導に生かしていきたい。来年度の発表は、ぜひ見きてほしい。」



## 講演 「学校教育の新分野・足教育とシューエデュケーション」

早稲田大学人間科学学術院

招聘研究員 博士(学術) 吉村眞由美

「靴行動で大切なこと、正しい靴の選び方と正しい靴の履き方靴教育で得られる効果」

- 運動パフォーマンスの向上
- 快適性の向上
- 転倒障害の予防
- 緊急時の安全確保

## 「靴教育で身に付けるべき力」

- ①靴の機能性選定力 ②靴のサイズ選定力 ③正しい履き方行動力

平成十五年から日本とドイツの比較研究を行い、課題は足、日本に靴に対する教育がないからだと言付き、平成二十一年から靴教育の研究を行っている。

足の骨の成長・発達には段階的で六、七才はまだ軟骨が多い。大きすぎる靴を履いていると、巻き爪や親指が変形し、小さすぎる靴は外反母趾になる。

ドイツでは、足のサイズを測り、靴の選定は知識と経験のある大人が行う。子供靴は革製で無地、機能性が重視されている。学校では靴を履くスペースには椅子が用意されている。小学校入学前に、子供が一人で紐靴を履く文化が根付いている。

靴全体がゆるいのは間違った靴感覚である。痛くなく、歩きやすく、足を守る履き方指導が大切である。

すぐに足が大きくなって靴が履けなくなるのは、もったいないから大きいサイズの靴を買うのではなく足のサイズより0・5cm大きい靴を半年で買い替えるのがよい。



足育の概要



フットプリンター体験



足指体操の様子

JESが行った児童・生徒の  
一人一人に対する足に関するアン  
ケートから、子供たちの足の健  
康についての現状と課題を把握  
しました。そこから、学校教育  
としてできることを行ってきた。  
その活動を通して、我々  
「JASPE足育」から三つの  
提言があります。

提言一 「足育」を学校教育に  
位置づけよう

提言二 「足育」を日常生  
活  
よう

提言三 「足育」の専門家を育  
てよう

その提言を実現していくため  
に、

①出前授業  
②授業改善  
③授業内容のパッケージ化  
に今後も取り組んでいきます。



模擬授業の様子

体験されたほとんどの方が実  
際と普段履いている靴の大き  
さが違うことに驚かれていまし  
た。自分の正しいサイズと足跡  
が分かり、より切実な問題とし  
て足育をとらえるようになりま  
した。

指導内容の体験として、  
①模擬授業  
②「ぎゅつと足育」

③足指体操  
を体験しました。

模擬授業では、実際にとった  
足型をもとしながら、足の指や  
土踏まず等の視点をもとに意見  
を交流しました。また、正しい  
靴の履き方、健康的な足にする  
ためにはどうすればいいかを学  
びました。

「ぎゅつと足育」では、養護  
教諭による保健指導や学級での  
短い時間に指導できる「足育」  
を体験しました。「ADU」（足  
をどンドン動かそう）をキー  
ワードに、ポイントをおさえた  
足育指導を学びました。

足指体操では、歌に合わせて  
体と心をほぐしながら、足の指  
や足踏まずに触れたり、足指を  
動かしたりする体操に取り組み  
ました。参加者のみなさんも笑  
顔で取り組んでいました。

翌日は足育推進委員とJES  
の会員とで佐賀大会の様子を振  
り返りました。

○足指体操など体を動く活動は  
研修会では盛り上げるが、実  
際、各校でやりきれているの  
だろうか。先生方で実践した  
感想を伝えるというのも一つ  
の手である。

○内容の重複が今回、多々見ら  
れた。フットプリンターでと  
った足型は我がこととして考  
える一つの手立てとなる。グ  
ループの中に推進委員を入れ  
たことでより積極的な意思疎  
通ができた。

○模擬授業では、足を動かすこ  
と、靴を正しく履くことを重  
点にした。フットプリンター  
をとると自然とグループで話  
すようになる。今後は、学校  
のニーズに合ったプログラム  
が必要。

○保護者向けパンフレットを作  
成する必要がある。

○みんなを巻き込む努力、会場  
に合わせたプログラムの展開  
や参加者特典があるとよい。  
今後の出前授業や次年度の研  
修会に生かしていきたいと思  
います。

# ※足育推進委員会委員※

内木 勉

（練馬区立大泉北小学校校長）

眞砂野裕

（昭島市立成隣小学校副校長）

難波誠二

（台東区立大正小学校副校長）

武田千恵子

（足立区立足立小学校主任教諭）

関口亮治

（千代田区立お茶の水小学校主幹教諭）

吉川則久

（奥多摩町立古里小学校主幹教諭）

濱田 哲

（台東区立千束小学校主幹教諭）

小島大樹

（調布市立第三小学校指導教諭）

西島秀一

（世田谷区立松原小学校主任教諭）

両角知子

（八王子市立第五小学校主任教諭）

前村章太

（台東区立根岸小学校主幹教諭）

平 武史

（台東区立根岸小学校主幹教諭）

岩田純一

（墨田区立業平小学校指導教諭）

青木大輔

（葛飾区立南奥戸小学校主幹教諭）

寺内周平

（葛飾区立松上小学校主任教諭）

菅原健次

・学体連理事

吉永武史

・学体連参与

早稲田大学准教授

日本教育シューズ協議会

理事長 早川家正

理事 武原充宜

# 平成28年度 個人賛助会員

## 個人賛助会員 (10,000 円)

|      |        |
|------|--------|
| 北海道  | 小松 芳幸  |
| 青森県  | 山之内 彰  |
| 秋田県  | 加賀見 俊一 |
|      | 菊地 清志  |
| 山形県  | 宇山 栄一  |
| 福島県  | 堀内 真人  |
|      | 西間木 正行 |
| 茨城県  | 松本 正人  |
| 埼玉県  | 羽田 聡   |
| 千葉県  | 平島 昭一  |
| 東京都  | 西山 守   |
|      | 渡辺 宏   |
|      | 坂田 博美  |
|      | 山口 真佐子 |
| 神奈川県 | 山口 昭生  |
| 新潟県  | 金子 博信  |
| 富山県  | 早川 誠一  |
|      | 島瀧 兼人  |
|      | 福田 里恵  |
| 石川県  | 栗井 祥弘  |
| 福井県  | 小林 博一  |
|      | 小林 弥寿夫 |
|      | 尾崎 剛敏  |
| 岐阜県  | 廣瀬 治良  |
|      | 鈴木 賢治  |
| 静岡県  | 安松 敏   |
|      | 鈴木 洋一  |

|      |        |
|------|--------|
| 山梨県  | 飯島 節生  |
| 愛知県  | 権田 敏弘  |
|      | 為房 信弘  |
|      | 藤嶋 典弘  |
| 滋賀県  | 寺村 泰男  |
| 大阪府  | 森口 賢二  |
|      | 村上 浩一  |
|      | 児島 慎一  |
|      | 福重 隆至  |
| 和歌山県 | 藤村 利行  |
| 鳥取県  | 伊藤 文男  |
|      | 小倉 健一  |
| 島根県  | 青木 敏章  |
|      | 安藤 賢一  |
| 岡山県  | 平井 桂子  |
| 広島県  | 岡本 耕治  |
|      | 大畠 孝則  |
|      | 池田 周三  |
| 徳島県  | 矢野 謙作  |
|      | 林 博子   |
| 愛媛県  | 菊地 啓二  |
|      | 森 茂樹   |
| 高知県  | 小野 剛   |
| 福岡県  | 平川 眞利子 |
| 佐賀県  | 藤井 裕明  |
|      | 渡瀬 浩介  |
|      | 大坪 郁弘  |

|      |       |
|------|-------|
| 長崎県  | 榎林 弘明 |
| 熊本県  | 岩下 佳史 |
|      | 楠木 正昭 |
| 鹿児島県 | 水之浦 修 |

| 過年度高額個人賛助会員 |        |
|-------------|--------|
| 平成 25 年度    |        |
| 青森県         | 柿崎 紀一  |
| 平成 26 年度    |        |
| 和歌山県        | 柑本 敏一  |
| 平成 27 年度    |        |
| 徳島県         | 石倉 美枝子 |



児島 株式会社  
JES日本教育シューズ協議会  
株式会社 ギムニク  
フットマーク 株式会社  
株式会社 学研教育みらい  
株式会社 大修館書店  
大塚製薬 株式会社  
教育シューズ振興会  
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）  
株式会社 第一学習社  
日進ゴム 株式会社  
株式会社 光文書院  
東京書籍 株式会社  
大日本図書 株式会社  
セノー 株式会社  
廣済堂あかつき 株式会社  
ブランロッシュ 株式会社  
東商アソシエート 株式会社  
株式会社 文溪堂  
株式会社 エバニュー  
プラス 株式会社

<大会協賛企業>

東武トップツアーズ 株式会社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から  
助成を受けております



学びたくなる、学びを。 **学研**

# 株式会社 学研教育みらい

学校教育事業部

〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

TEL 03-6431-1151(代表)

ほしい情報が  
ここにある！



学研 学校教育ネット <http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



facebook <https://www.facebook.com/gakkengakkokyoiku>

研究と実践の架け橋になる月刊専門誌

# 体育科教育

毎月14日発売

本体830円  
〈B5判〉

小・中・高・大学の体育指導者や専攻学生を主対象に、体育・スポーツの諸問題を、幅広い教育的視点から毎回特集形式で編集。学校現場の課題解決に、よりよい授業実践に、教材開発や授業研究に、最新の話題入手に、理論武装に、役立つ情報を満載しています。また、新しい学習指導要領に対応した内容も豊富です。

【最近の主な特集】

- ▶【徹底リサーチ!】体育・保健の「見方・考え方」
- ▶【学習指導要領の改訂】新しい学習指導要領とこれからの武道
- ▶【学習指導要領の改訂】保健と体育の関連を図る
- ▶【学習指導要領の改訂】新しい学習指導要領とこれからの水泳
- ▶【学習指導要領の改訂】新時代の体育を求めて
- ▶【学習指導要領の改訂】主体的・対話的で深い学びを体育でどう実現するか
- ▶よみがえれ! 日本の運動会・体育祭
- ▶いま、リレーの魅力を掘り下げる!
- ▶新しい学習指導要領とこれからのボールゲーム …ほか

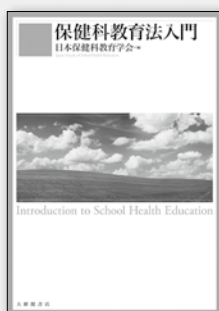


大修館 体育・スポーツ関連書

## 保健科教育法入門

日本保健科教育学会〔編〕

保健科教育を学ぶ学生及び教師のための基本図書。保健科教育の基礎知識に始まり、良い授業の考え方・作り方、授業スタイル、教授技術、学習評価、授業展開例に至るまで多岐に渡る内容を初学者向けに易しく解説。平成29年3月告示の学習指導要領にも対応。



●B5判・194頁 本体1,700円

## 「知・徳・体」を育む 学校体育・ スポーツの力

本村清人〔著〕

長年にわたり教職および教育行政の仕事に携わってきた著者が、これまでの学習指導要領の作成経緯や教育理念を平易に解説し、新たな見方を踏まえた学校体育・スポーツの価値を再確認する、保健体育教師必読の書。



●四六判・210頁 本体1,500円

## 運動部活動の理論と実践

友添秀則〔編著〕

運動部活動は学校生活に彩りを添える教育活動である一方、“ブラック部活”などと問題視されている。本書は、多くの問題を抱える運動部活動を改善し、その意義を実現するために、部活の歴史やあるべき姿を明らかにし、さらには実務的な知識や科学的な指導法まで網羅した、これからの部活指導に必読の書である。



●A5判・304頁 本体2,300円

## 運動部活動の教育学入門 歴史とのダイアログ

神谷 拓〔著〕

なぜ運動部活動は学校にあるのか。体罰・暴力、勝利至上主義などの問題はどのようにすれば克服できるのか。こうした問いに答え、学校教育の一環としての運動部活動を確立していくためには、「運動部活動の教育学」を開拓していく必要がある。



●A5判・336頁 本体2,800円



## 学校生活にかかせない栄養補給

子どもたちが元気に安全なスポーツを行うためには、毎日の食事がとても大切です。  
特に、朝食やおやつ(間食)の栄養バランスには気を使しましょう。

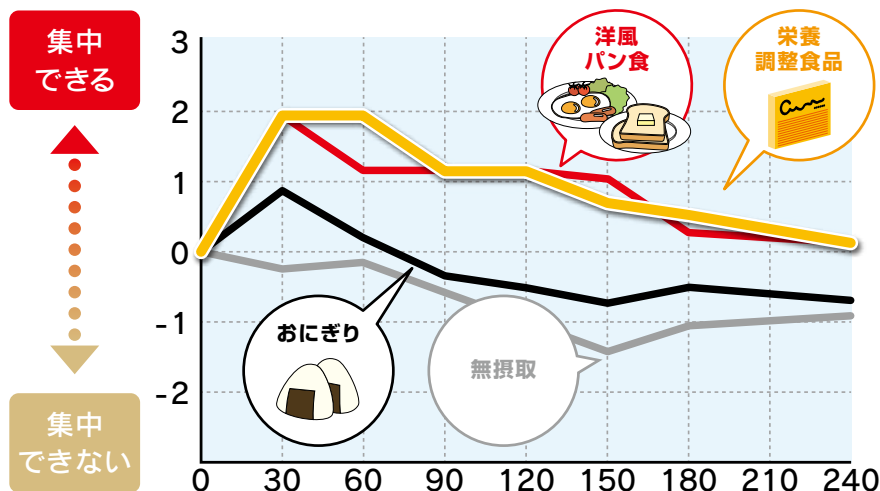
### 集中力のためにバランスのよい朝食を摂ろう

- 集中力は、練習や試合で結果を出すためには必要な要素です。
- 集中することでケガの防止にもつながります。
- 集中力のため、バランスのとれた適切な食事を摂りましょう。
- 時間がないときは市販の栄養調整食品で。

#### 食事の栄養バランスがポイント

右図において、栄養バランスのよい朝食を食べた場合、また、市販の栄養調整食品を食べた場合には、食べなかった場合に比べて集中力が高まる事が証明されました。一方、おにぎりのみ摂取した場合は、朝食を抜いた時と同様、作業集中度は上がっていないことが示されています。

出典：「樋口ら、日本臨床栄養学雑誌(2007年)」



### 生徒たちの安心のために、災害対応バランス栄養食

栄養バランスが偏りがちな災害時の食生活をサポートする目的で生まれた「カロリーメイトロングライフ」。  
もしもの時こそ、栄養バランスのとれた高効率なエネルギー食が何よりも必要とされます。

備蓄・保存に適した  
賞味期限3年の  
カロリーメイトです。

小さく軽い配りやすい商品形態で、  
少ないスペースで効率の良い  
備蓄ができます。

耐水性に優れた  
アルミ包装です。



栄養バランスに優れています。

お年寄りや小さなお子様にも  
食べやすい商品です。

信頼・安心のブランドです。

「もしもの時」の非常食  
カロリーメイト ロングライフ

Long Life 3years

長期保存可能 バランス栄養食 チョコレート味

※この商品は市販しておりません。ご注文いただいてから生産いたします。

こんな使い方はいかがですか？



入学時に、  
人数分を  
備蓄。

3years



無事故無災害の場合は、  
卒業前に  
学校行事等で配布。

災害備蓄用のご相談は

お問合せ先 ▶ 大塚製薬株式会社 販売促進部 直通 TEL : 03-6361-7304 担当 : 橋爪、神頭(こうず)

大塚製薬は、(公財)日本学校体育研究連合会の法人賛助会員です。

# クロールで25m泳ぐ近道。

## クロールで25

浮く運動が苦手な児童に役立つ練習用具を提案します。  
卒業までに【全員が25m泳げる】のために。

がんばる先生応援サイトオープン!

各学校の水泳授業情報を配信しています。

※現役の先生を対象とした会員登録制です

<http://www.swim-teacher.jp>

検索 水泳common



★ご登録された方にスイムキャッププレゼント★

品名:クロールで25

品番:132139

サイズ:120~170cm

カラー:紺色のみ・男女兼用

仕様:オールインワン型水着

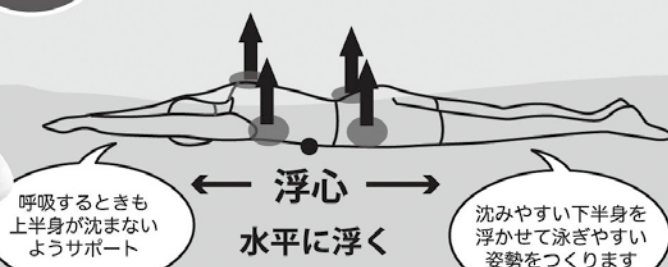
浮力シート8枚セット

価格:4,500円(本体価格)



泳げる近道  
1  
着るだけで  
水平に浮く

体を4点の浮力で吊り上げ、水平姿勢(ストリームライン)をつくる水着です。



泳げる近道  
2  
浮力が調節  
できる

習得段階に合わせ浮力の調節ができます。最後は浮力シートなしで泳げるよう補助。



## すまいるスイムシリーズ【超はっ水で速乾・軽量】

速乾 軽量

超はっ水

超はっ水だからできる速乾・軽量!

着用者の90%以上が軽さを実感(当社比)。



水にぬれても、肌にはりつかずさらとした軽い着心地

超はっ水だから…「着替えがラクラク!!」

\*使用後の持ち運びもラクラク! \*通常の水着より速く乾きます!

安全・安心!!「赤外線盗撮」から子供達を守ります。

●水を弾き軽い!体が浮く感じ!

●はっ水効果は3年以上持続!



赤外線盗撮防止素材を採用!安心・安全な水泳授業を応援!  
フットマークだけのオリジナル新素材!

技術企画・開発(協賛特許) 朝倉染布 株式会社 / 山田化学工業 株式会社

フットマークの新素材は、赤外線を吸収する染料加工を施すことで悪質な赤外線盗撮を予防し、赤外線盗撮から子供達を守ります!



[www.footmark.co.jp](http://www.footmark.co.jp)

※右記までご連絡下さい。資料等をお送り致します。

フットマーク株式会社 スクール販売部

東京都墨田区緑2-7-12 TEL:03-3634-0506

FOOTMARK®



# Gakushin®

SCHOOL SHOES  
**S-2800**



**S P E S** スペース  
学校体育シューズ研究会  
School Physical Education Shoes

**School Shoes** としての耐久性  
ただ長持ちさせるのではなく、  
運動性能と安全性能も大切です。

**協和株式会社** 神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号  
TEL : 078 - 611 - 4376 (代)

**GOLDSTAR**  
SPORTS SCHOOL SHOES

**GX**



体育館  
シューズ

**S P E S** スペース  
学校体育シューズ研究会  
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現  
超軽量モデル 片足 (24.5cm) 290g

**ASTICO** 岡山県岡山市中区江並417-1  
株式会社 アスティコ TEL : 086 - 276 - 2010 (代)



# スクールシューズのプレミアムスタンダード 教育シューズ® PK-X3



極める

グリップ性  
耐久性  
超軽量

technology



## 着脱・フィット感

- 靴のペロ部分は、靴紐でペロがずれないように一体カットになっています。
- 履きやすいようにペロの先端に引き上げつまみが加工され巻き込みを防ぎます。



## かかと加工

- 踵にネームスペースと踏みつけ防止加工を施しました。



## ソール

- 安定性  
サイドスタビライザーによる、ねじれの防止
- ノンマーキング  
オリジナルソール  
最適なグリップ力で、前後左右の激しい動きに対応します。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員 TEL(086)243-2218 (製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467  
教育シューズ振興会 FAX(086)243-2253 <http://www.nisshinrubber.co.jp>  
E-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp



**児童書** 学習内容が着実に身に付く2学年ごと編成

**教師用指導書** 今日の授業にすぐ使える6学年分の指導資料

学習指導要領完全準拠 小学校体育副読本

# 「たのしいたいいく」

- 学習内容が着実に身に付く2学年ごと編成。
- 運動イメージをとらえやすく、動きのコツがすぐわかるワイド判。
- 基礎・基本も工夫の例も満載。2段階での学習過程を強力に支援。
- 自発的な学習の意欲を高める「学習活動と振り返りのページ」
- チェック欄で、児童が身に付けるべき内容を明確に提示。
- 系統性・発展性に即した資料配列と紙面構成。
- 学校の実態に合わせて使える運動領域別編集。



判型：全学年 AB判  
オールカラー  
1・2年生：56P  
3・4年生：88P  
5・6年生：112P  
価格：444円＋税



株式会社 文溪堂

## 祝 第56回 全国学校体育研究大会 和歌山大会

見て、撮って、比べて、共有する。

体育とタブレットPCの親和性で、スキル習得を確かなものに。

小学校  
中学校

新刊

# 体育実技 スキルアップ支援ソフト

お手本動画を見ることも、自分の動作を撮って確認すること  
も、それらを比べることも、そして、共有することも。

本ソフトがタブレットPCを体育スキル向上の強力アイテム  
に変身させます!

価 格

学校内フリーライセンス **200,000円**(税別)



東京書籍

ICT 事業本部 営業部(東京) 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1  
(大阪) 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-4-10

Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582  
Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357

足の成長を一番に考えた「教育シューズ」

**教育シューズ®**  
**A** **エスMV3**



安全で快適な  
ポイント

- 1 通気性
- 2 安定性
- 3 クッション性
- 4 快適性

**教育シューズ®**  
**プレミアム誕生!**

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

**教育シューズ振興会**

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

E-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp



# 【新体力テスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体力テスト準拠)

## 体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

**230円**(税込)



みつめたい教育と未来

**第一学習社**

## 以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

- 大阪支社/☎06-6380-1391
- 新潟営業所/☎025-290-6077
- 横浜営業所/☎045-953-6191
- 福岡営業所/☎092-771-1651

- 札幌営業所/☎011-811-1848
- つくば営業所/☎029-853-1080
- 名古屋営業所/☎052-769-1339
- 金沢出張所/☎076-291-5775

- 仙台営業所/☎022-271-5313
- 東京営業所/☎03-5803-2131
- 神戸営業所/☎078-937-0255
- 沖縄出張所/☎098-896-0085



**EVERNEW®**

子どもたちの笑顔のために  
安心・安全なグッズを  
お届けしています

〒136-0075

東京都江東区新砂 1-6-35

イーストスクエア東京ビル 6F

TEL 03-3649-3052

FAX 03-5683-5946

<http://www.evernew.co.jp>



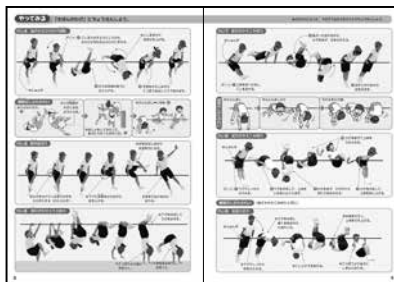


学習指導要領準拠 小学校体育科 準教科書

# 体育の学習

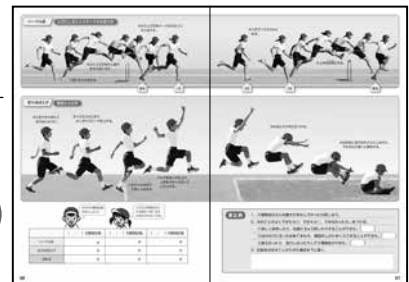
児童書 1～6年 全学年  
オールカラー 定価 各学年  
470円(税込)

指導書 1～6年 定価 各学年  
2,300円(税込)



楽しさにふれ、  
技能が身につく！

連続写真で  
わかりやすく解説！



『体育の学習』ご採択校には、デジタル図書教材「デジ体」を、無料でご提供いたします。

『体育の学習』対応 デジタル図書教材

## デジ体

デジタル体育

DVD版

アプリ版

\*DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご採択いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。  
\*アプリ版は、児童書+指導書のご採択校へ認証コードをご提供します。認証コードで、全コンテンツが閲覧できます。  
・アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。  
対応OS:iOS8/9, Windows 8.1



よくある「つまずき」に対応した  
解決法を動画で確認！

動画撮影&  
保存機能も！  
動きの確認や、  
評価に役立つ！



アプリ版の撮影・保存機能と  
とび箱運動の全動画は、認証コード不要  
今すぐ、ご使用いただけます！

デジ体の  
詳細は  
こちら⇒



学ぶことが好きになる。

光文書院

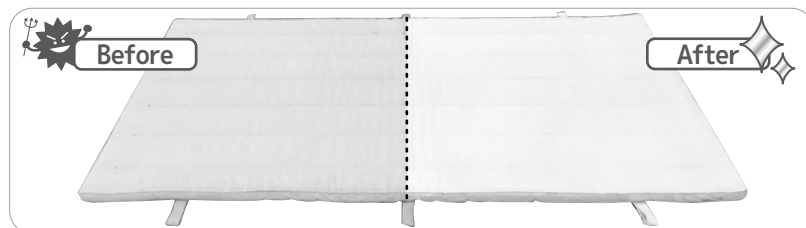
〒102-0076 東京都千代田区五番町14  
TEL.03-3262-3271(代表)  
FAX.03-3230-4190  
<http://www.kobun.co.jp>

## NEW! 体操マットクリーニング

汗やホコリなど長年の汚れが付着した体操マットを、プロのクリーニングでキレイにします！



平成 29 年度  
プラス教材カタログは  
教材・備品を豊富に掲載！



※クリーニング実施後の一例です。

参考価格

900×1800mm サイズを 6 枚クリーニングすると...

¥51,480 +税〜 (諸経費含む) 1 枚あたり ¥7,800 +税〜

クリーニングを動画で紹介中



有料オプションもご用意しています



PLUS の教材 <http://plusyouzai.jp>



プラス株式会社 ジョイントテックスカンパニー 教育事業担当へお問い合わせください。

東 北: Tel 022-214-6623  
中 部: Tel 052-262-1271

関 東: Tel 048-642-7755  
関 西: Tel 06-6241-0567

東 京: Tel 03-6205-8570  
中 四 国: Tel 082-545-0201

東 海: Tel 045-201-2121  
九 州: Tel 092-283-5211



# 運動・スポーツの教え方・学び方 新しい体育の授業づくり

編著者 勝亦紘一 中京大学名誉教授 家田重晴 中京大学教授

体育の授業や運動部の活動を通して、  
生徒が楽しみながら生涯スポーツの基礎を築くための指導者の道標

ISBN 978-4-477-02631-2 ■ B5判/208頁 ■ 2,000円(+税)



児童・生徒にはわかりやすく、  
先生には扱いやすい準教科書

たのしい  
体育 1~6

B5判/オールカラー/ 52~ 84頁 ■ 457円(+税)

朱書きでポイントがわかる教師用指導書 ■ B5判 84~116頁 ■ 1,714円(+税)

図説 新  
中学校体育実技



B5判/オールカラー/ 336頁 ■ 教師用指導書付き ■ 727円(+税)

**大日本図書**  
<http://www.dainippon-tosho.co.jp>

本社 〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6 ☎03(5940)8675  
中部支社 〒464-0075 名古屋市千種区内山1-14-19 高島ビル ☎052(733)6662  
関西支社 〒530-0044 大阪市北区東天満2-9-4 千代田ビル東館6階 ☎06(6354)7315  
九州支社 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-15-33 ダイアビル福岡赤坂7階 ☎092(688)9595

## クライミングで 遊びながら 体力づくり



### ★クライミングの効果

- 腕・腹筋・背筋・脚の筋肉に加え、バランス感覚をフル活用することで、総合的に体力を向上します。
- 大きな達成感が、自分自身への信頼と自信(セルフエスティーム)を生み出します。
- 登っている人を応援、一緒に考えることでコミュニケーション能力が育まれます。

クライミングのことなら弊社におまかせください。25年間で500ヶ所以上のクライミング施設を施工し、年間 50件以上の保守点検も実施。(国内シェア70%以上)

豊富な経験とノウハウで、安心のサポートをいたします。

**東商アソシエート株式会社 クライミング事業部**

〒104-0032 東京都中央区日本橋茅場町3-12-2

TEL:03-4321-0142 FAX:03-4321-0141

<http://www.climbing-tosho.com/>

Physical  
Exercises  
Gymnastics  
Track&Field  
Swimming  
Basketball  
Handball  
Soccer  
Volleyball  
Soft Tennis  
Table Tennis  
Badminton  
Softball  
Judo  
Kendo  
Sumo  
Dance  
Skiing  
Skating  
Outdoor

## 学校体育教育の新時代をひらく あかつきの副読本&ワーク



図解  
中学体育



新保健  
体育ワーク



新保健  
ワーク

お手もとに，ぜひ。

廣濟堂あかつき株式会社

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11

☎03-3825-9188

<http://www.kosaidoakatsuki.jp/>

あかつき

## Blanc Roche

体操着・水着・上履き  
カスタムシューズ  
ユニフォーム



ブランロッシュ株式会社

〒176-0006 32-15, Sakae-chyo Nerima Tokyo

Tel: 03-3994-1055

<http://www.blanc-roche.com/>

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>





### Gymnastics

選手の力を最大限に引き出せる  
製品を送り出す。  
セノーの体操器具は  
そんな思いで創られています。



### VolleyBall

器具だけでは終わらない  
セノーのサポート力。  
ニーズに応えた  
製品をお届けします。



### BasketBall

様々な設置条件に  
合わせた安全な製品。  
セノーだからできる  
オンリーワンを提供します。



### Health & Fitness

未来を見据えた健康事業。  
製品だけでは終わらない  
サポートを目指します。



### Gymnasium

総合スポーツメーカーとしての  
より良い環境提供。  
小学校から総合体育館まで  
最適な環境を提案します。



### Education

体育で苦手意識を作らせない  
「できない」を「やった!」に変えて  
運動を楽しむ  
サポート器具を開発します。



安全と安心がスポーツの原点

思いきりスポーツを楽しむために、  
自分の限界に挑戦するために、  
セノーはスポーツ器具の製造から  
メンテナンスまでを一貫して行います。



セノー製品の  
最新情報をチェック!

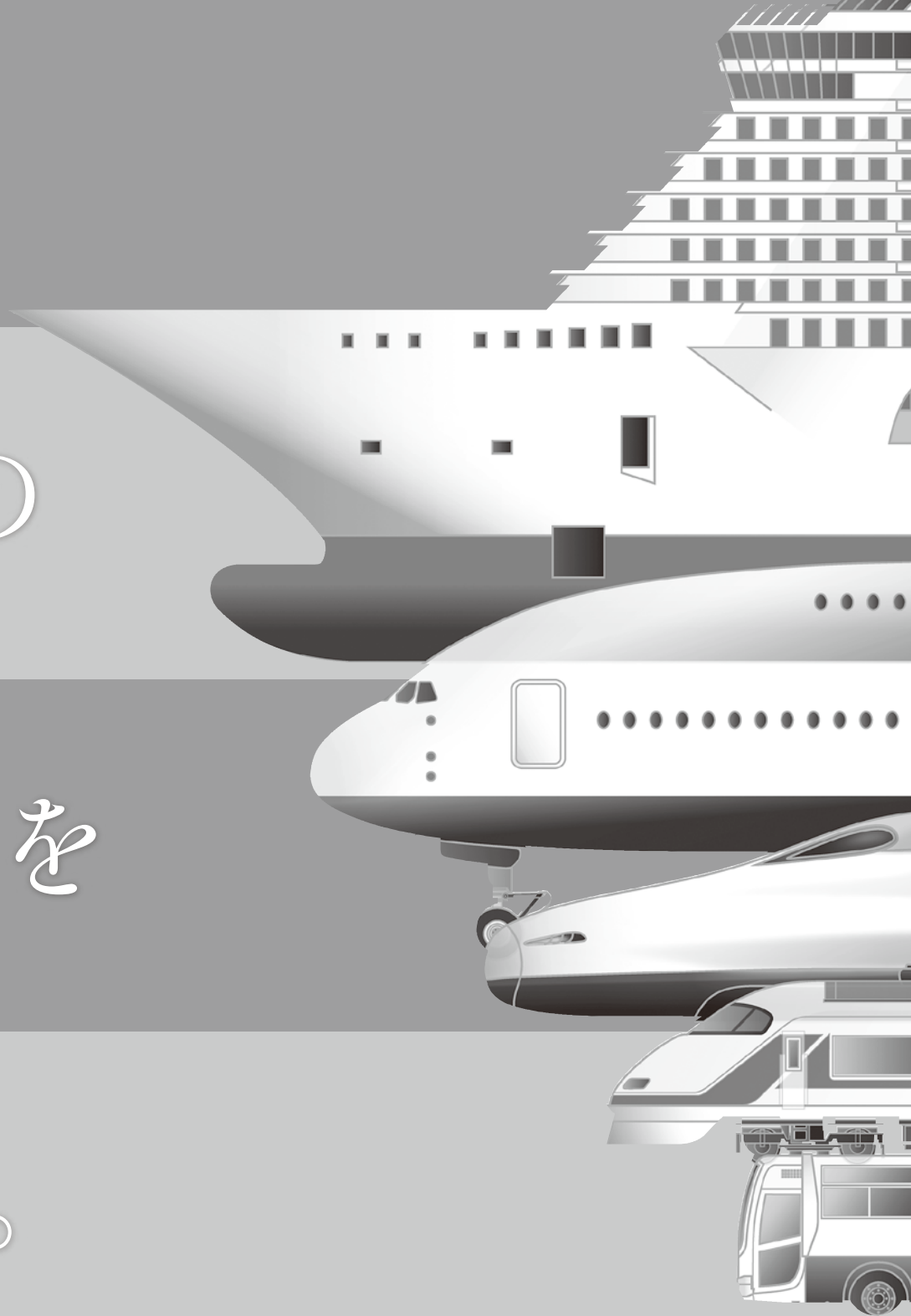


**セノー株式会社**

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250番地  
Tel:047-385-8912 Fax:047-385-9177  
<http://www.senoh.jp>

本財団は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から  
助成を受けております

# 旅が、 未来の わたしを つくる。



東武トップツアーズは、全国学校体育研究大会を応援しています。

スリリングだったり、とてつもなくダイナミックだったり、  
思いもよらない出逢いがあったり、 かけがえのない何にも勝る感動と遭遇したり・・・  
そんな旅のひとつひとつが、 あなたの心を育て、 あなたの未来を素敵に変える  
きっかけになりますように・・・  
私たちは真剣にプレゼンします。



観光庁長官登録旅行業第38号  JATA正会員・ボンド保証会員

**東武トップツアーズ**  
TOBU TOP TOURS

[www.tobutoptours.co.jp](http://www.tobutoptours.co.jp)



／レッツチャレンジ！／

# はじめての ボールエクササイズ



CE

ギムニクバランスボールは  
世界で最も厳しい安全基準で  
あるCE規格に合格しています



日本体操学会



(公財)日本学校体育研究連合会



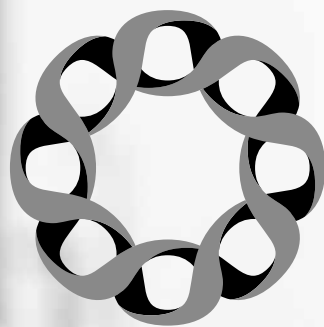
NPO法人 日本Gボール協会

株式会社ギムニク [www.gymnic.com](http://www.gymnic.com)



**GYMNIC BALANCE.**





# Columbine

The Guardian of School Life

## 守る体操着

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

### 児島株式会社

つねによりよい学校体育の環境づくりを提案しています。

本社／〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川2-4-60 TEL 086-473-4634 FAX 086-472-0866  
関東営業所／〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町1085 TEL 048-642-5883 FAX 048-642-4766  
盛岡営業所／〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北1-4-18 TEL 019-638-7501 FAX 019-637-0144  
URL: <http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail: [gyomu4@kojima-gp.co.jp](mailto:gyomu4@kojima-gp.co.jp)



JQA-EM 5215  
ISO 14001:2004  
児島株式会社、コロンバイン様



JQA-QM7340  
ISO 9001:2008  
児島株式会社、コロンバイン様、株式会社